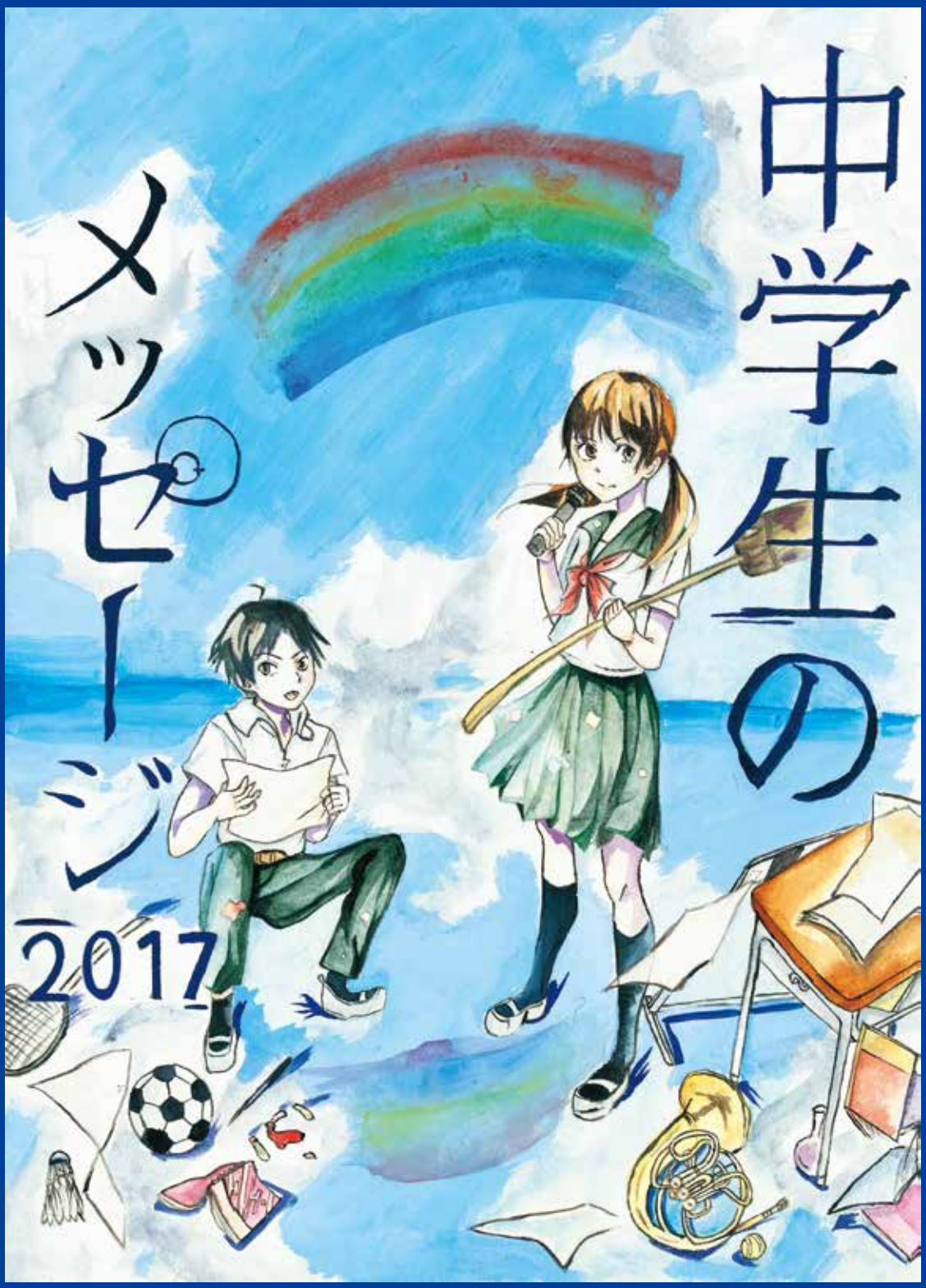
中学生のメッセージ2017

第39回 少年の主張 三重県大会



デザイン画第1位：「青春を掲げる空」　伊勢市立倉田山中学校3年　坂上　空優さん

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
南勢志摩地区中学生のメッセージ実行委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

「中学生のメッセージ2017」を終えて

今回も「中学生のメッセージ」は、多くの方々のご協力を得て無事終了いたしました。

応募してくれた中学生は１万2,361人。第一次、第二次審査を通過した14人が「中学生のメッセージ2017」において最終審査に臨みました。

まさに選りすぐられた14作文の内容は、自分自身の内面を掘り下げたもの、社会事象に自分の視点で迫るもの、誇らしげに家族への愛や感謝を伝えるもの等々、みずみずしい感性や知性があふれるものばかり。発表の態度も堂々と明瞭な中にもそれぞれの個性が垣間見え、会場から「大したものだ」という感嘆の声が聞こえてきたのも頷けます。

「中学生のメッセージ」は、このタイトルが示すように中学生が活躍する場であり、当日の運営も地元中学生が担ってくれます。今回もたくさんの生徒さんが、司会や案内などの役割を元気に堂々と果たし、会場に爽やかな風を吹かせてくれました。また、吹奏楽や狂言の披露は、日頃の鍛錬がうかがわれる素晴らしい内容でこれもまた会場の心をつかみました。さらには、PR用のポスター展に寄せられた作品は力作が揃い、展示コーナーには来場した方々の輪ができました。

毎回、こうした中学生の活躍を開催地の各市町青少年育成市町民会議による実行委員会が、綿密な準備と当日のサポートで盛り立てます。今年度も南勢志摩地区の皆さんの「中学生のために」という気持ちが日ごとに高まって最高の舞台が整えられました。

このように中学生の活躍と大人の熱い思いが共鳴し、今年度の「中学生のメッセージ」が終わりました。

中学生の皆さん、関係者各位に心から感謝申しあげます。

当財団は、若者の感性をしっかりと受け止められる地域社会づくりの一端を担うべく、この「中学生のメッセージ」を育ててまいりたいと思っております。

どうぞ今後とも皆様のご支援をよろしくお願い申しあげます。

平成30年１月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
理事長　太　田　栄　子

平成29年度 中学生のメッセージ 2017
（平成29年８月27日　伊勢市生涯学習センターいせトピア）

発表者と審査委員の皆さん

受賞者と運営協力していただいた中学生の皆さん

目　次

「中学生のメッセージ2017」を終えて

◆大会発表作品

最優秀賞

「弱点は宝物」　伊勢市立厚生中学校１年　大西　諒……1

優秀賞

認めあう社会　四日市市立三重平中学校３年　三田　京佳……3

「情報社会に生きる」　津市立橋北中学校３年　曽我萌々子……5

働きすぎではないですか？　伊勢市立小俣中学校３年　細井亜弥乃……7

優良賞

「誰もが生きやすい社会」　津市立橋北中学校３年　石河　圭太……9

LGBTへの理解と配慮　四日市市立富田中学校３年　臼井　絢香……11

生命のつながり　伊勢市立城田中学校３年　梅澤　瞭太……13

「言葉と態度～人と人とを繋ぐもの～」

松阪市立大江中学校３年　梅田　颯……15

これからの防災と私たちの声　尾鷲市立尾鷲中学校２年　北裏　功……17

命の重み　志摩市立大王中学校３年　北端　梨桜……19

LGBT　四日市市立内部中学校３年　平山奈那美……21

アウトメディア　多気町松阪市学校組合立多気中学校1年　廣瀬ことは……23

見逃すな！幸せの青い鳥のSOS　四日市市立内部中学校３年　米花　歩夢……25

珍しいを当たり前に　名張市立桔梗が丘中学校１年　山村　悠月……27

◆審査委員のみなさま……29

◆審査委員の講評……30

◆大会概要

１．応募の状況……37

２．地域優秀賞受賞者一覧……39

３．学校奨励賞受賞校一覧……40

◆大会メモリアル……41

◆中学生への応援メッセージ……45

◆協賛企業・団体紹介……46

◆参考資料

１　中学生のメッセージ2017（第39回少年の主張三重県大会）実施要項……47

２　第39回少年の主張全国大会～わたしの主張2017～……49

３　平成29年度内閣総理大臣賞の紹介〔少年の主張全国大会～わたしの主張2017〕……51

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。

最優秀賞
「弱点は宝物」

伊勢市立厚生中学校１年
大　西　　諒

僕は、人には誰でも弱点があると思います。その弱点は、苦手な事や物、障害など、人によってそれぞれ違うと思います。そして、その弱点によって嫌な気持ちになったり、マイナス思考になってしまうことがあると思います。ですが、弱点というのは、それだけのものなのでしょうか。僕はそれは違うのではないかと思います。

僕は生まれたころから右耳が聞こえていませんでした。皆の言っている事が聞こえにくい僕は、色々な人に迷わくをかけてきました。

幼稚園の時、僕はまだ幼いので、片耳が聞こえていないという実感もなく、生活の中で、苦労した記憶もありませんでした。友達と普通に遊べていたし、先生の話もしっかり聞けている、僕はそう思っていました。しかし、それは、たくさんの人の助けがあって、不安のない生活をおくれているのだということに、その時の僕はまだ気づいていませんでした。

そして、僕は耳の事についてあまり心配せず、小学生になりました。小学校は幼稚園と違い、様々な事を一人でしないといけませんでした。僕は小学校で、片耳が聞こえない人のつらさ、周りの人の努力を知ることになりました。幼稚園の時は知らぬ間に配慮してくれた座席、声の大きさなど、小学校では、他人の気配りによって、僕が困らないようになっているということはありませんでした。幼稚園の時、当たり前のようにしてもらった事を、自分がやろうとしても、うまくいきませんでした。自分では出来ないことを、周りの人にやってもらい、それを当たり前と思い込んでいた自分を、おかしいと思うようになりました。そのころから、僕は自分を見直せるようになりました。今まで、周りの人に何をしてもらったのか、してもらった事に対して自分はどうしてきたのか。それから、僕は今までしてもらったことに感謝せず、当たり前と思っていた自分を戒めました。それまでは耳の事でみんなにうまく伝えられず、あきらめてしまった事に対しても頑張ろうと前向きになりました。

そして、少しずつですが、幼稚園の時に、周りの人に苦労をかけてしてもらった事を、自分でできるようになっていきました。僕は弱点のおかげで成長することができました。

そして、僕の成長は周りの人にも影響を与えていくのだということも小学校の時に知りました。

僕が弱点に対してマイナスにならず、心を開いて努力しているのを見た友達が、弱点に対して前向きになったように思いました。最初に言ったように一人一人の弱点は違います。でも、みんな弱点のおかげで成長してきたことは同じだと思います。みんな同じように、様々

★部活動や学校外活動	剣道部・学級長　<学校外>バドミントン・水泳・英語
★好きな科目	理科・数学
★好きなことや好きなもの	バドミントン・黄色
★将来の夢	一級建築士

な人に助けてもらって、色々考えてきたから、心を開いて信頼できたのだと思います。

そして、僕は中学生になりました。小学校で弱点は自分が成長するきっかけだと知った僕は、中学校で弱点を使ってもっと成長していこうと思います。これからどんな弱点があらわれ、それによって、僕はどう成長するのか楽しみです。

弱点はマイナスだけではないことを僕は知りました。弱点は人を強くします。弱点は仲間との信頼関係を生みます。弱点は自分を見直すきっかけになります。

みなさん、弱点のある事は、そんなに悪いことでしょうか。弱点のない完ぺきな人なんていません。逆に弱点がないと周りの人達の思いやりに気づくことができません。弱点は自分を高める宝物なのです。恥ずかしがらずに前を向くことで新しい自分が生まれるのではないでしょうか。

優秀賞

認めあう社会

四日市市立三重平中学校３年

三　田　京　佳

私の妹は、音楽を聴く事が好きです。私の妹は、自己流で料理を作ります。私の妹は、布団にくるまることが好きです。私の妹は、毎日何十回もこれからの予定について質問しにきます。何度も確認をすることで、気持ちが落ち着くようです。みなさんはここまで聞いて何か気づいたことはありませんか？私の妹は、自閉症です。

自閉症とは、発達障害の中の広汎性発達障害に分類されます。広汎性発達障害とは、障害の見られる領域が一つや二つではなくたくさんあることを特徴とする発達障害のグループに属します。

そんな妹は、小学校の支援学級に在籍する小学６年生です。両親は入学する際、妹に対する支援について学校と話し合いました。ずっと支援学級で過ごすのではなく、体育や音楽などは、みんなと一緒に学習させてほしい、また妹のペースに合わせて個別の指導をしてほしい、休み時間も目の届く所に先生がいてほしい、これらを要望として出しました。

妹は幼稚園児の時、あまり言葉が出ず、会話も成り立ちませんでした。私は、これから先もずっと妹はこのままなのだろうか、と思っていました。しかし、小学校に入学してから簡単な字の読み書きや計算が出来るようになってきました。そして、徐々に言葉も出てきて、今は自分から色々と要望や質問をしてくるようになりました。こんなに妹が成長できたのは、本人の努力もさることながら、先生と同級生のサポートがあったからだと思います。

妹は放課後や母が仕事のある休日などはデイサービスを利用しています。デイサービスとは、妹を預かってくれる場所です。妹が学校に通い始めた頃は、近くにそういう施設はまだあまりありませんでした。しかし、最近は障害者デイサービスも増え、送迎してくれる所も一般的なものになってきました。普段の活動内容は、部屋での学習や、近くの公園で遊ぶことが多いのですが、大きな公園や水族館、この前は伊勢神宮にも行ってきました。もし、デイサービスがなかったら、妹はあまり外に遊びに行けずストレスを感じていたでしょう。デイサービスは私達家族を支える大切な場だと言えます。

現在は、発達障害について理解が広がりつつあります。しかし、「自ら閉じる」と書いて自閉症と読むので引きこもりと誤解されたり、自閉症に限らず発達障害は見た目だけでは分からないことも多く、ただ我が儘に見えたり、不真面目に見られたりすることが多いのも事実です。しかし、本人達はなりたくて障害をもって生まれてきたのではありません。彼らの中には、「どうして自分は周りの人と同じようにできないのだろう」と悩んでいる人もいます。

★部活動や学校外活動	芸術部
★好きな科目	英語
★好きなことや好きなもの	合唱
★将来の夢	今、探している所です。

しかし、自分にはどうする事もできないことが多いのです。

自閉症では、強いこだわりをもつ人が多く、いつもと違う道を通ったり、本人にとって不快な音が流れたりするとパニックになったりすることがあります。それは、不安な気持ちの表れなのです。これから先、みなさんも学校や就職先などで発達障害のある人と出会うかもしれません。そんな時は、優しく声をかけるのも良いですが、見守ったり、その人に合った環境を私達が作っていくことが大事だと思います。初めは分からなくても、接していくうちにその人の気持ちが感じとれるようになり、手助けの方法も見えてくると思います。それは障害のない人達についても同じことなのではないでしょうか。精神面で不安定な時や、体調が思わしくない時などには、その人の気持ちに寄り添うことが大切だと私は考えます。そして、障害の有る無しに関係なく、お互いを認めあえる社会をみんなで目指していきましょう。

優秀賞

「情報社会に生きる」

津市立橋北中学校３年

曽　我　萌々子

皆さんは、新商品を選ぶ時、何を基準に選びますか。パッケージの美しさや直感で選ぶ人もいるかもしれません。しかし、テレビやインターネットの情報から選ぶ人も多いと思います。そして私たちは、その商品を実際使ってみることで、その情報の選び方が正しかったかどうかを検証することができます。では、私たちはかたちのないものの情報を得る時、どのように向き合っているのでしょうか。

私は、今年の１月に韓国へ行く機会がありました。行き先を決めていたちょうどその頃テレビや新聞では、韓国に関する多くの報道があり、その中には「反日」という言葉も繰り返し使われていました。その報道を目にしてきた私には、「なぜ、たくさんの国がある中で旅行先に韓国という国を選ぶのだろう？」という気持ちがありました。しかし、そのような気持ちを言葉にしてはいけない気がして父と母にその気持ちを伝える事ができませんでした。そんな私にとって、韓国ですごす時間の中で、とても心に残る出来事がありました。それは、何度も乗った地下鉄でたくさんの人が、私の妹たちに席を譲ってくれたことです。時には、日本語で「こんにちは」と言ってくれる人もいました。私も片言の韓国語で「カムサムニダ」と感謝の気持ちを伝えました。すると、言葉や文化を超えて人とつながれたことで温かい気持ちになり、とても嬉しくなりました。しかし、そんな気持ちを感じた自分のなかに、本当はひっかかるものがありました。それは正直に言うと、この旅行に行く前、日本人であるということをできるだけ気付かれないようにしようと秘かに決めていた私がいたからです。反日という言葉が頭から離れず、日本人と知られることで怖い思いをするかもしれないと思っていたのです。しかし私が地下鉄での経験から感じた本当の怖さとは、豊かな情報社会の中で自ら知ろうと思わなければ、一方的な情報をう呑みにしてしまうということでした。今まで私は、情報に疑問を持つことなく無意識のうちに受け取ったイメージを、いつのまにか自分のものにしてしまっていたのかもしれません。

私は、３年生になって、歴史の授業で韓国併合について学びました。そして、日本と韓国がどのように関わってきたのかを知り、その過去が、今にどのようにつながってきているのかを考え、自分なりに理解することができました。もし、旅行先を決めていたあの時に、この背景を知ろうとしていれば、違った情報の受け止め方があったと思います。そして、理由のわからない不安や、心のひっかかりを感じなかったのかもしれません。

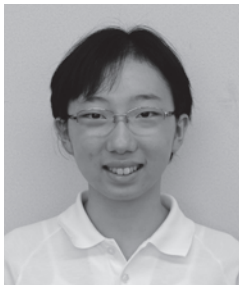
今、世界がばらばらになりかけています。民族の違い、宗教の違い、過去の出来事。それ

★部活動や学校外活動	陸上部
★好きな科目	英語、国語
★好きなことや好きなもの	読書
★将来の夢	医師

らに捉われて世界の国々は自分の国を守ることで必死になっているように感じます。そして多くの情報が私たちのもとへ流れてきます。その情報の中には私たちの安全を守ってくれる大切な情報もあります。しかし中には、偏った情報や、極端な情報もあると思います。それらの情報は、私たちが新商品の情報を得た時のように、正しい情報だったかどうかを簡単に検証することができません。そのためより慎重に、それらの情報を自分の考えや知識を持って、選び取る必要があると思います。

私たちが決して忘れてはいけないことは、情報は人の手によって切り取られた一部分であるということです。かたちのないものの情報であればあるほど、そこに至るまでには、その背景があり、また、その続きが存在するのではないでしょうか。

私には今、国境なき医師団で働きたいという夢があります。情報を通して初めてこの活動を知った時、とても心を動かされました。情報は、私たちが自分自身の未来を考える時、力を貸してくれます。また、私たちが知らなかった世界を見せてくれます。情報とは、私たちの使い方次第で、タイムマシンやどこでもドアになってくれる素晴らしい道具なのだと思います。私たちは、そんな便利な時代に生まれてくることができました。だからこそ世界が揺れる今、情報を発信する側は豊かな社会を創るために、受け取る側は豊かな心を得るために、「情報」という道具を使いこなしてみませんか。本当の意味での「情報でつながる社会」を築いていくために。



優秀賞

働きすぎではないですか？

伊勢市立小俣中学校３年

細　井　亜弥乃

皆さんは、家族揃って食事をとっていますか。学校での出来事など、家族と話をしていますか。

私の家族は、会社員の父と、専業主婦の母そして私の三人です。会社員の父は今年の４月から大阪へ単身赴任をしています。以前から毎日仕事が多忙で帰宅時間が遅く、遠方への出張も度々あり、平日の夕食は家族揃って食べられない事がほとんどでした。単身赴任となった今、父との夕食は大阪から帰っているときだけとなり、今まで唯一家族が揃う朝食も、平日は母と二人だけです。

単身赴任により、家族が二重生活になり、父の生活に関わる世話も多く、母の負担も増えたように感じます。

父は、休日には帰宅してきますが、平日の仕事に加え、帰宅のために片道２時間の移動で疲れているのか、家に居てもソファーでくつろいでいることが多いです。

家族が不自由なく生活するために働いているのに、働いている本人が辛そうにしているのは、果たして良いことなのでしょうか。

近年、利便性を追求し続けた結果、年中無休や24時間営業の商業施設がたくさん作られ、激安や格安といった価格競争や、過剰なサービス提供による労働環境の悪化が問題になっています。長時間労働や過労死、低賃金、非正規雇用、残業代未払い、ブラック企業など、労働に関する言葉も数多く耳にします。最近、大手広告代理店の若い社員が過酷な労働環境に耐えきれず、自殺してしまったという痛ましい事件も起きました。

私もいずれ労働者になると思うと、このようなニュースは決して他人事ではありません。

父の仕事は基本的に平日出勤です。しかし現代の日本ではそのような形態の仕事ばかりではありません。医療や福祉の仕事では、夜勤が欠かせず、教育や保育の現場でも、過重労働や人手不足がクローズアップされ、厳しい労働環境や条件の中で働く人が多く存在しています。

このような状況の中、2007年には政府や地方自治体、経済界、労働界の合意により「ワーク・ライフ・バランス」が、策定され官民挙げて、様々な取り組みがされています。ワーク・ライフ・バランスとは、私生活の充実を図ることで、知識やスキル、人脈などを身に付け、仕事に活かし、仕事が早く終われば、より私生活が充実する、というような好循環を作ることです。

★部活動や学校外活動	吹奏楽部
★好きな科目	社会・理科・音楽
★好きなことや好きなもの	ピアノ・フルート演奏
★将来の夢	音楽に関わる仕事に就きたい

ですが、私には、仕事と生活のバランスがとれているようには思えません。

私の家では、父が勤めに出て、母は家に居て全面的に家族のサポートをしてくれていますが、今は女性も結婚後に働いていることが多く、家族みんなが忙しいという状況になっています。それでは、家族の団らんもなかなか叶わないのではないでしょうか。

勤勉なことで知られている日本人ですが、その勤勉さが働くということの本質を忘れて自分や自分の周りの人々を犠牲にしてしまっては元も子もありません。

人としての心の成長に、家族との団らんの時間は、とても必要です。家族に自分の思いを聞いてもらうだけで心が軽くなったことはありませんか。悩んでいる事や、言いづらい事でも、和やかな雰囲気なら言えるときがある、特別な話でなくても温かい食事をとりながら楽しく会話する、そんな日々の積み重ねがよりよい私生活の充実につながっていくと私は思います。

日本は、先進国と言われるようになり、さらなる成長と発展を求め、それを労働者にも求めてきましたが、労働環境や労働条件は、まだまだ発展途上だと思います。政府や企業もプレミアムフライディ等の対策を進めていますが、あまりその効果を私は感じることができません。日本がさらなる発展を続けるためには、企業は利益のみを追求するのではなく、まずは、労働環境を整えた上で、利益を上げるための手段を追求する、労働者は仕事の効率を上げるための努力を進め、家族と過ごす時間を増やす、そうすれば、私生活が充実し、さらなる日本の発展につながっていくと私は考えます。

優良賞
「誰もが生きやすい社会」

津市立橋北中学校３年
石　河　圭　太

「圭太くん、おはよう！」

「舜くん、おはよう…。」

何気ない挨拶なのに、僕達を見る目が、何故か冷たく感じたのは、気のせいでしょうか。

「舜くん」とは、僕の従兄弟で、「自閉症」という脳の障がいを持っています。彼は特別支援学校に通っている高校２年生で、駅前の交差点で朝に会った時は、必ず挨拶をしてくれます。周りの目が冷たく感じたのは、もしかすると、舜くんが障がいを持っている事に気付いて、「おかしい子だな。」と思っていたからなのでしょうか。

この事に対して僕は、激しい怒りを覚えました。なぜなら、挨拶という当たり前の行動なのに、その相手が障がい者というだけで、人を見る目が変わったように感じたからです。また、僕が挨拶をした相手は、僕にとって大切な人なのです。

そこで、舜くんが持つ障がいの内容、つまり困っている事について一部説明します。まず、聴覚が過敏であることです。人は無意識の内に、音を取捨選択しています。しかし舜くんは、一つの音を集中して聴くことが苦手で、必要の無い音も聴こえてしまうのです。次に、言葉をうまく話せないということです。人は言葉を聴いて理解できるとその言葉が話せるようになりますが、舜くんはその過程で文字の順が入れ替わってしまいます。彼が小さかった頃は、言葉を覚えるのが本当に大変だったそうです。

でも、困っている事ばかりではありません。舜くんは、小さかった頃の僕との会話を覚えています。つまり、僕自身も覚えていない事でも覚えているほど、優れた記憶力を持っているということです。それなのに僕達は、勝手な偏見で人を判断しがちです。皆さんにも、苦手だったり、困ったりすることはあると思います。それは、全ての人において共通することだと、普段僕は感じています。

舜くんのお母さんに聞いた話によると、できない事は助けてもらって、できる事は見守ってくれると助かるそうです。つまり、周りの人からの理解があると、できる事が増えて、生活の範囲がぐんと広がるのです。

例えば昔、ある学校で障がいを持った生徒の入学希望について、入学を許可しなかったことがあったと聞いたことがあります。学校に行くことで沢山の事を学べるのに、社会の偏見によって、生活の範囲が縮小したのです。

舜くんの場合は、近所の方々から温かく見守られているので、近所の方々と関わり合いな

★部活動や学校外活動	吹奏楽部、生徒会
★好きな科目	数学、音楽、理科、英語
★好きなことや好きなもの	楽器演奏、作曲、書道
★将来の夢	教師

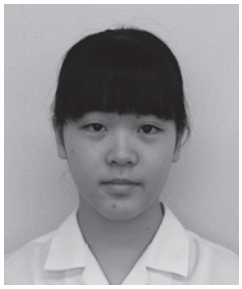
がら生活することができています。これは周りの人の理解によって、生活の範囲が拡大したといえるでしょう。

僕は、「健常者」「障がい者」という言葉を使いたくありません。むしろ必要ないと思っています。なぜなら、「健常者」と呼ばれるような人は、この世に一人もいないからです。障がいとは、「社会での生きにくさ」だと僕は思っています。「社会での生きにくさ」の程度は人それぞれですが、他の人とそれを補い合って生きるという事は、当たり前に行われなければいけない事だと思います。そのためには、「社会での生きにくさ」の異なる人同士が、互いによく関わり合って、他人の事を理解しようとする姿勢が大事なのです。「この人はおかしいな」と決めつけて遠ざかるのではなく、その人とよく向き合う努力をする事が、僕達に必要な行動なのです。これは、「社会での生きにくさ」が大きい人に対する事だけに限りません。家族や友人、クラスメイトといった、身近な人にも共通する事なのです。その人が困っていないか、どんな気持ちなのか、何をする事が必要なのか…。まずそれを考えてから、それによって気付いた事を、相手の立場に立ちながら、僕達は行動するべきなのです。

これらの事を自分が実行するのは勿論ですが、僕はこの考えを身近な人にも発信していきます。一人が少しずつ行動を変えるだけでも、誰もが過ごしやすく、生きやすい社会へと変えていけるはずです。もし、そんな素晴らしい社会になったら、周りの目に疑問と怒りを感じていた僕の挨拶も、

「舜くん、おはよう！」

と、清々しい挨拶に変わるのではないでしょうか。



優良賞

LGBTへの理解と配慮

四日市市立富田中学校３年

臼　井　絢　香

皆さんは、LGBTという言葉を知っていますか。LGBTとは、同性愛者、両性愛者、心と体の性が不一致である人のこと、つまり、性的少数者を示す言葉です。少数者といっても、13人に１人程度いるとされているため、日本には約１千万人もいることになります。

LGBTというと、身近にいない限り、オネエ、オカマと呼ばれる芸能人をイメージする人が多いと思います。私も同じです。私がこの発表をしようと思ったのは、多くの人が「LGBTイコール芸能人」という考えを持ったまま、身近にいるかもしれないLGBTに対して、今まで通りに接することができるのか、考えてみようと思ったからです。

テレビなどで活躍しているLGBTの芸能人は、自分がLGBTであることをさらけ出し、それぞれの個性を発揮しています。しかし、13人に１人もいるLGBTの全員が、芸能人のように自分がLGBTであることをさらけ出せているのでしょうか。

LGBTと私達では、性への感じ方が違うだけです。そうわかっていても、人は少数派に対して大勢で攻撃をする「弱い者いじめ」をするという悪い習性を持っているため、LGBTに対して偏見を持ってしまうのは仕方がないようにも思えます。

私のような感じ方を持つ人がいるせいで、LGBTは学校や仕事を休みがちになったり、最悪の場合、自殺に至ることもあります。アメリカのフロリダ州では、去年６月にLGBTを狙った銃乱射事件が起きるなど、LGBTへの差別は世界的な問題にもなっています。

こうしたことを防ぐために、LGBTの権利尊重の取り組みが各地で進められています。東京都渋谷区では一昨年、同性カップルを「結婚に相当する関係」と認定し、認定証を発行する条例を定めました。三重県内でも、伊賀市が渋谷区と同様に、LGBT支援の動きを広めました。

また、2020年の東京五輪に向けて、新しく施設を建てたり、建て直す際に、LGBTに配慮したトイレの設置が提案されています。心と体の性が不一致である人の65パーセントが、学校や職場のトイレの利用で困り、そのうちの４人に１人が排せつ障害を経験しているというアンケート結果を基に、誰でも使える多目的トイレの増設などが具体例として挙がっています。

こうした取り組みが進められていても、私は、LGBTのストレスの原因となることは、世の中にたくさん残っているのではないかと感じます。例えば、電車の女性専用車両に、体は男性でも心は女性である人が乗るのはいけないのか、といったことです。女性専用車両は、

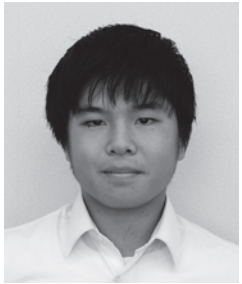
★部活動や学校外活動	吹奏楽部
★好きな科目	英語
★好きなことや好きなもの	愛犬の世話
★将来の夢	公務員

女性には配慮してあっても、LGBTには配慮されていません。女性とLGBTのどちらにも配慮することは難しいのでしょうし、自分で考えてみても、アイディアが浮かびません。これが問題なのです。

誰かの人権を尊重する時、誰かの人権を無視することになり、また問題が生じる。こうした悪循環に陥らないためには、皆が平等であるべきです。しかし、現代人が持っている偏見や差別心は、大昔からの名残がほとんどだと思うので、今更そんなことを言っても手遅れです。では、私達が新しく差別や偏見の原因を作らないためには、何をするべきでしょうか。

今、私達がスタートとするべきことは「違いを認めること」ではないかと私は考えます。もし、自分の家族や友人がLGBTだと知ったら、今後の関わりを絶つでしょうか。恐らく、そんな人はいないでしょう。なぜなら、その人の長所を知っているからです。もちろん、最初は戸惑うかもしれません。しかし、LGBTは身近にいてもおかしくありません。むしろ、「それがどうした」と思えるほどでないといけません。

国や市区町村での大規模な取り組みも大切ですが、まずは私達が理解を進めていくべきです。このことは、LGBTに限らず、全ての人に共通します。自分と相手との違いをお互いの個性として捉えられるようになれば、誰にとっても過ごしやすい環境が実現可能になると考えます。



優良賞
生命のつながり

伊勢市立城田中学校３年
梅　澤　瞭　太

僕は犬を１匹と猫を９匹飼っています。この犬と猫は、どの子も殺処分されそうな子たちでした。殺処分と簡単に言いますが、大切な命がなくなる悲しいことです。犬や猫、その他の動物は、人間と同じ命をもっています。世の中には、犬や猫を捨てる人や、いじめる人がいます。僕はそういうことをする人の気持ちを理解することが出来ません。動物を捨てる人や、いじめる人の中には、このように言う人もいます。

「ただの動物なんだから良いじゃないか。」

この言葉からは、人間の身勝手な様子が分かります。人間の身勝手な行動で、動物の命が失われるのは、あっていいことなのでしょうか。僕はあってはいけないことだと思います。もちろん、すべての動物を飼うことは出来ません。ですが、動物のために出来ることがあると、僕は思います。殺処分される動物は、１匹78円で殺されます。僕は、動物の価値が78円のように思えて、胸が張りさけそうになりました。この78円という数字をあなたは、高いと思いますか、安いと思いますか。僕はどちらでもないと思います。命というのは、数字なんかで表せるものではありません。保健所では、年間20万匹以上の動物が殺処分という悲しい運命にあっています。これは、とても悲しいことです。僕は、一つでも多くの大切な命を救いたいと思います。

僕は昔、ダックスフント犬を飼っていました。一緒に遊んだり、メロンパンを食べたりしたことを今でも覚えています。ですが、ある日の朝、いつも通り声をかけにいくと、その子は目を開けませんでした。この子がもう、いつもみたいに鳴かないと思った時、僕は涙が止まりませんでした。そして、心の中に大きな穴があいたような気がしました。ですが、僕はその子から、自分たち人間とは生きていられる時間は違ったとしても、動物１匹１匹に人生があり、思い出があり、大切な家族がいて、何よりも大切な命があることを学びました。命は粗末にしてはいけないと、強く思うようになりました。そして、その子の命と僕の命はつながりをもちました。僕は、命とは心のことだと思っています。そのダックスフントの子の命、いわゆる心は、僕の心の中で、まだ生きているからです。そして、その命は、僕の今飼っている子たちや、自分の子どもへとつながっていくと思います。僕たちが今出来ること、しなければいけないことは何か、自分なりに考えてみました。

まず、殺処分される動物を減らすには、一度飼おうと決めた子は責任をもって育てるべきです。一つの命を預かることに責任をもってほしいです。また、ペットショップでお金を払っ

★部活動や学校外活動	陸上部
★好きな科目	体育
★好きなことや好きなもの	スポーツ、ゲーム、動物
★将来の夢	電気関係の仕事に就くこと

て飼うくらいなら、今保健所にいる子たちを助けてあげてほしいです。それだけで命は一つ助かります。そして、今飼っている子たちを幸せにしてあげることが、一番大切だと思います。一緒に寝たり、遊んだりして、たくさん思い出をつくりたいです。身近な、小さな思い出でも、たくさんあれば、大きな思い出になると思います。そして、たくさんの思い出が、今飼っている子たちの幸せにつながるのではないでしょうか。他にも、自分の出来る範囲で、動物に関わるボランティアなどをしたり、自分なりに、殺処分を減らすための解決策を考えたりしていきたいです。一つでも多くの命を救えるようにしたいです。どの命も大切であり、つながりあっていることをみなさんにも気付いてほしいです。そして、一人一人が一つ一つの命を大切にしていってほしいです。僕も自分の命を誰かにつなげられるように、自分の命を大切にしていきたいです。

優良賞
「言葉と態度～人と人とを繋ぐもの～」

松阪市立大江中学校３年
梅　田　　颯

人の印象というものは、一体何で決まるのだろうか。また、人は相手の今の心情や感情を何によって感じ取っているのだろうか。僕は、「言葉や態度」だと思う。日常生活の中で必要不可欠なものである「言葉や態度。」世論調査の統計においても、第一印象を決定づけるものとして、視覚が全体の割合の半分以上を占め、聴覚、言葉の内容などと続く。視覚の中に態度も含まれているので、態度というものがいかに重要かが分かる。コミュニケーションの際に重要な態度についても、表情や話し方等、常に相手を思い、相手がより受けいれやすい柔和さを心がけたいと思う。

そして思いを伝える際、最も大切になるのは紛れもなく「言葉」であり、口調や内容で人に与える印象というものも、大きく変わる。しかし、先に述べた通り言葉は、普段の生活で欠かせないものであり、日々流れる生活では、一つ一つの言葉を意識している余裕は無い。それ故、言葉のトラブルが発生するのだろう。実は、僕も小学生の時にこんな体験をした。ある日の朝、級友の話を聞いている時に何げなく相槌で「ふーん」と言って最後の言葉を終えた。しばらくしてその相手の人が泣いているのに気が付いた。訳を聞くと、僕が相槌を打った「ふーん」という言葉を、その級友は自分の話に興味が無くて言われたものだと捉えたのだ。これは、級友の完全な勘違いだ。しかし、言葉の受け取り方は人それぞれで、相手と僕とでは異なるのだ。今回の場合は、級友の涙によって気付けたが、大人になるにつれてそんなことは心の中に留めておくようになるだろう。ということは、相手が不快に思っていても気付かないし、気付けないということになってくる。自分自身、頭の中で言葉を取捨選択し、使い分ける必要が出てくる。中学生の今、語彙力が増え色々な言葉が使えるので、僕自身考えて使いたい。こういったことは、人が周りから言っても自分が変えなければ何の意味も無い。一人一人意識することが大事であるし、意識していきたい。それに皆が意識してほしい。

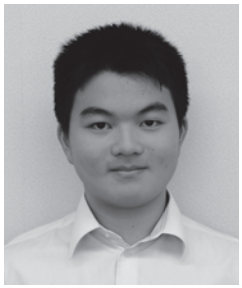
また、現在のコミュニケーションツールとして大きな役割を果たしているメールやラインは、表情や態度が分からず文面だけとなる。人は普段同じ言葉でも、言葉のイントネーションや相手の表情や態度などで、どういう意味であるかという判断をする。しかし、文面ではそういったものが分からない。そのため慎重に言葉を選ばなくてはならない。中高生において、ライン内での勘違いトラブルというものがある。それは、文面では思いが伝わりきっていない部分があったため起こったのだと思う。僕も、メールを送る前には必ず間違いがないか確認する。それでも相手に伝わりきっていない時もある。僕自身、文面を受け取る側とし

★部活動や学校外活動	ソフトテニス
★好きな科目	社会
★好きなことや好きなもの	歴史
★将来の夢	人の役に立つ仕事

て、よく意味が理解できない時もある。僕達は、書くという慣れ親しんだ作業のなかでも言葉・文脈に気を付けて文章を書かなければならない。僕はこれまで文面という形では十分意識していたが、会話の際には、今までそれほど深く意識していなかったことに気付いた。今回は、会話における言葉の重要性を実感し、改めて常日頃から言葉を一つ一つ考えて発したいと強く思った。

自分の心の在り方を相手に一番伝えられるのは言葉、そしてその際の態度だ。悲しい時や嬉しい時、その時は感情を表に出し、言葉に思いを込めて発する。しかし、自分の機嫌が悪い時や不安を持った時は、自分自身の感情をコントロールして、接しなければならない。こういった事は普段無意識にやっていることかもしれない。大人になるにつれて対人関係を円滑にする感覚は日々の生活で育まれている。それ故に、考えずに発する人が多いのも事実だ。自分の言った、行った「言葉や態度」が相手に不快感を与えるということ、何より自分のことを正しく理解してもらえないという悲しい現実を生むことを念頭に置いて行動してほしいし、自分もそう行動したいと強く思う。

一人一人が一つ一つの言葉を考えて、相手の気持ちを深く思って話すことで、相互理解が深まり、「言葉や態度」でのトラブルも無くなるだろう。そして幸せで平穏な暮らしができるような世の中になってほしいし、そんな世の中に是非していきたい。



優良賞

これからの防災と私たちの声

尾鷲市立尾鷲中学校２年

北　裏　　功

最大で17m。これは、僕が住む街で大地震が起きた場合、到達すると予想されている理論上最悪の場合の津波の高さだ。

僕が住む三重県尾鷲市は、今後発生するであろう南海トラフ地震の津波によって、大きな被害がもたらされることが予想されている。そして、その地震・津波が来るいつかの日のために今のうちからどう立ち向っていくかが今後の課題だ。

僕がこの事について深く考えるようになったきっかけがある。それは、昨年の土曜授業の日だ。その日、学校では防災フェアが開催された。午前の日課が終わりいつものように昼食を食べた後、着席して先生の指示を待っていた。するとその時、体に感じる細かい揺れに続いて、今まで体感したことのない強い揺れが20秒くらい続いた。

僕はとっさに自分の体を守るために机の下に隠れ、津波が来るのではないかという心配をしながらも揺れが収まるのを待った。その後揺れが収まると、事前に指示されていた場所に避難した。その地震は震度４の揺れで津波は来なかった。しかし、このようなやや強い揺れを感じたにも関わらず身を守ることを怠ったり、揺れが収まった後に避難しようとしなかったりした人が大勢いたという話を後から聞き、この地震でもし津波が来ていたら避難していなかった人はどうなったのだろうと僕は危機感を感じた。

今、尾鷲市では地域で津波防災についての取り組みがなされている。尾鷲市では地震発生から５分程度で津波が来ると言われているため、中学校の防災訓練では５分以内に避難できるように日々真剣に訓練に取り組んでいる。さらに、市役所には『津波は逃げるが勝ち。５分で逃げれば被災者０！』という横断幕が掲げられている。また、海が近い地域では地域のみんなが夜間に自治会が主催する防災訓練を行い、近くの高台に避難する訓練が定期的に開かれている。これらの取り組みから、僕たち中学生や海に近い地域の人々は防災意識が高いことが分かるが、その一方でこういった取り組みに関心が少ない人がいるのも現状である。こういったことを考えると、前に発生した地震でも避難する人が少なかったことも分かる。

この課題を克服するためにも、日ごろから防災意識をもって行動している僕たち中学生が、社会全体の防災について考えていくべきだ。そのためには、東日本大震災から５年以上が経ち、薄れかかっている防災意識を再び取り戻してもらえるように働きかけなければならない。たとえば、地震・津波の怖さについて地域の人に知ってもらえるように短めの動画を作って流したり、地域の人と交流できるイベントなどの際にプレゼンテーションをしたりすれば良

★部活動や学校外活動	吹奏楽部
★好きな科目	理科・英語
★好きなことや好きなもの	電子工作
★将来の夢	航空管制官

いと思う。

また、「釜石の奇跡」という言葉を耳にしたことはないだろうか。これは、東日本大震災の時に岩手県釜石市では大津波に襲われたにも関わらず小中学生のほぼ全員が無事であったという奇跡的な出来事のことを指す。このとき、大きな貢献をしたのが先生ではなく中学生だった。中学生が小学生の手を引き、高台に避難しているのだが、それは事前に学校の授業で習った「津波避難三原則」を地震が発生した後も冷静に思い出して行動した結果である。その津波避難三原則の中に、「率先避難者たれ」という言葉がある。誰かが率先して避難すれば、それを見た人がつられて避難することを指していて、まさしく中学生が率先して避難したことで、周りも影響を受けて、不測の事態でさえ冷静に周りの人々も行動できた釜石の事例であろう。僕も小学生の時に、この津波避難三原則を授業で習った。この三原則を習った僕たちもこのように地震が発生した時、冷静かつ率先して避難しなくてはならない。そして、この釜石の中学生のように周りに影響を与えることができる率先避難者となり、一人でも犠牲者を少なくできるような行動をとらなくてはならない。

最後になるが、必ず起こると言われる南海トラフ巨大地震に備え、被災してしまう前だからこそできる「減災」について理解を深め、また一人でも多くの命を守れるように、これから一人ひとりが少しでも防災意識の向上に努めるべきだと考える。

優良賞
命の重み

志摩市立大王中学校３年
北　端　梨　桜

「皆さんの中に、家庭で動物を飼っている人はいますか？。」
その様な問いかけを担任の先生からされて、道徳の授業が始まりました。

私の家にも、水槽の中で大切に育てている家族の一員、ウーパールーパーがいます。その日の授業は、そんな家族の一員である動物についての授業でした。そこで見せてもらった一つのDVDは、保健所に送られてくる犬や猫たちのことを知るためのものでした。

毎日毎日、引き取られなかった犬や猫たちが、殺処分されてしまうという内容で、その数は27万頭にのぼりました。年々、減ってきてはいるとはいうものの、その数の多さを知り、私はとてもショックを受けました。それと同時に、このような現状を受け止めたくない自分がいました。

人間は健康に生きていれば、自分の意志で作れる明日があるのに、どうして犬や猫にはないのか。同じ命なのに何が違うのか。疑問、そして何とも言えない悲しみのような、怒りのような感情が私の中で交錯しました。

私が、動物に対してこのような感情を抱いたのは、今回が初めてではありませんでした。

私が小学生のころに、読んだ１冊の本。その本は、日々、保健所で働く人の姿を描いた本でした。心がえぐられるような思いで本を読み進めているとき、私の近所の人が飼っている柴犬と出会いました。おばさんは犬をとてもかわいがっており、犬もすごく幸せそうでした。
「この犬は幸せそうでよかった。」そんなことを思っていました。

でも、数年後、その犬が突然いなくなったのです。

「あの犬はどうしたんですか。もういないんですか？」
そう尋ねたら、おばさんは、

「大きくなるにつれて噛むようになってきたし、吠えるようになってきて、近所迷惑になるから、保健所に預けたの。」
と言いました。

私は、何とも言えない悲しい気持ちになったことを今でも覚えています。あの柴犬はどんな気持ちで飼い主のもとを去って行ったのか。きっといつか迎えに来てくれると信じて保健所で待っているのではないか・・・。そんな、犬の気持ちを考えていました。

今年、私たちの住む三重県にも動物愛護センターができました。保健所で殺処分される前に、一時保護される場所ができたということで、私はとてもほっとした気持ちになりました。

★部活動や学校外活動	バレー部キャプテン、級長
★好きな科目	国語
★好きなことや好きなもの	お菓子づくり、動物が好き
★将来の夢	法律関係の仕事に就きたい

そして今回、私にはもう一つ主張したいと思ったことがあります。それは、保健所で働いている職員の方たちのことです。私は以前、そこで働く人に対して、こんなことを思っていました。

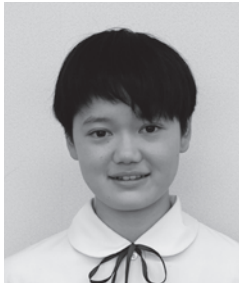
「すべての犬や猫を救ってあげればいいのに。この人たちは犬や猫が嫌いなんだろうか。」

でもそれは、間違った考えだと気づきました。今回、道徳の授業で見たDVDには、

「最後まで、面倒を見れないのなら、犬や猫を飼ってはいけない！」

と真剣に訴える職員の姿があったのです。その時、私は思いました。処分される犬や猫を受け入れる職員の方たちが、一番悲しい気持ちになっているのかもしれない、と。

この世に無駄な命なんてないのです。最後に、動物たちの命は、人間の都合で灰になるために生まれてきたのではないということが一人でも多くの人に伝わることを願って、私の主張とします。



優良賞
LGBT

四日市市立内部中学校３年
平　山　奈那美

私は、女。あなたは、男。じゃあ、そちらのあなたは？こう問いかけられた時、選択肢は「女」か「男」の二つだ。私は、そのことがおかしいと訴えたい。なぜなら、その「女」か「男」にあてはまらない人がいるからだ。

皆さんは、LGBTという言葉をご存じだろうか。「L」はレズビアンの女性同性愛者、「G」はゲイの男性同性愛者、「B」はバイセクシャルの両性愛者、「T」はトランスジェンダーの性同一性障害者を表した言葉だ。

その人達は「女」や「男」という言葉にあてはまらない別枠の存在だ。その人達は冒頭の質問に対し、どう答えればいいのか。自分を偽ってまで嘘をつくべきなのか。それは、非常に辛いことなのではないだろうか。

こんな話をするのも、私は、そのことに対し、とても敏感になるからだ。

理由は私の外見にある。私の性別は女だ。しかし、髪は短く、よく好んで男物の服を着る。そのため、男に間違えられやすい。そのことで不便に思うのがトイレだ。私が女のトイレに入るとたびたび視線を感じる。そして、「あの子、男の子じゃない？」「あれ？ここ男子トイレだったかしら」など言われる。大抵、そんなことがおきる。だから、私は、トイレが怖い。女なのに男と言われ不快な思いになる。私は何もしていないのに。そう感じる。そんな思いは、LGBTの人達と似ているのではないか。そう思い、テレビや新聞などで見聞きすると興味をもつようになった。

日本の人口の約7.6パーセントがLGBTの人という調査がある。これは左利きの人と同じくらいの割合だ。知り合いに左利きの人は何人か知っているけれど、LGBTの人は知らないという場合が数多くある。これは、自分でLGBTとカミングアウトすることが滅多にないからである。皆さんは、誰にも言えないことが一つはあるだろう。そのことを誰かに言えるだろうか。多くの人が「いいえ」と答えるだろう。それと同じようにLGBTの人は「自分がLGBTだ」と言えないのだ。言ったとしても、相手に差別心が生まれるだろう。そして、それが原因でいじめの標的となり自殺する人もいる。これが、今の日本の現状だ。

ところが、アメリカはそうではない。同性愛が認められ、結婚できるようになった州がたくさんある。同性で手をつないで町を歩いていても、買い物していても、何をしていてもそれが普通になった。それは、平等な社会への第一歩だと感じる。しかし、日本は、まだこの問題について関心が低い。東京の渋谷区など同性愛を認められた地域はあるが、それはごく

★部活動や学校外活動	バスケットボール部
★好きな科目	体育
★好きなことや好きなもの	お菓子作り
★将来の夢	海外で働くこと

わずかな割合であって、その他の地域は何も変わっていない。LGBTの映画やオネェの人達が出演するバラエティなどがあり、人々の認知度は高いが、これは画面の中の話であり、日常生活における実感はないと思う。

私は、人々がLGBTに対する理解を深めていくことが大切だと思う。人間は物事に対して決めつけるところがある。そして、その決めたことに反していると少し違和感を覚えてしまう。性別に関する場合も同じだ。この世の中には「女」と「男」という選択肢しかもたない人が多い。でも実際はその性別以外にあてはまる人がいる。だから、そういった人がLGBTの人と接した時に違和感が生まれてしまう。その違和感はさまざまな差別の温床になっているのではないだろうか。

私は、性別の中に「その他」という枠を増やすという提案をしたい。そして、相手に性別を聞かれた時「女」「男」そして「その他」と三つから答えられるようになって欲しい。「その他」と答えたとしても違和感をもたないで欲しい。将来が、「女」か「男」という二択ではなく「LGBT」という選択肢をもっている日本になって欲しい。そして怖がらずに、自分は「LGBTだ」と笑ってカミングアウトできるようになればいいと思う。

性同一性障害をもつ、はるな愛さんの言葉によると、

「この性別ってグラデーションですから。もっと大きく捉える男女、人間も色々でいいのかなって」

世の中が二色ではなく、もっとカラフルになるように私は願う。

優良賞
アウトメディア

多気町松阪市学校組合立多気中学校１年

廣　瀬　ことは

私は、ゴールデンウィークに家族で出かけました。そこでは、とても長い行列で大勢の人が待ちくたびれていました。私は、待ち時間は景色を見たり、読書をしたり、弟とじゃんけんなどの遊びをして時間をつぶしていました。その中で、スマホばかり見ている大人や、ゲームに夢中になっている小学生の姿がありました。せっかく、家族で遊びに来ているのに、こんな所にまでゲームを持ってきておかしいと思いました。こんな時に、おしゃべりをしたらいいです。

パソコン・スマホ・テレビ・タブレット・ゲームといったメディアとの接触時間が長ければ長いほど、生活習慣が乱れ、体力や学習意欲、コミュニケーション能力の低下につながります。そして、姿勢も悪くなるので、ストレートネックやスマホ老眼といった問題も出てきています。また、寝る前などにスマホやパソコンなどのブルーライトの刺激を受けると、寝つきが悪くなったり、眠りが浅くなったりします。さらに去年は、「ポケモンＧＯ」による死亡事故や歩きスマホによる交通事故も発生しました。こうしたメディアによる様々な問題点が明らかになりつつある中で、メディアと触れ合う時間を制限したり、ふだんのメディアの時間や、使い方について見直したり、コントロールする力をつけたりするアウトメディアの取り組みを小学校や中学校で行うようになってきました。

よくテレビで、「続きはホームページへ」と、サイトに誘導されて見てしまう時があります。それに、私は、塾の勉強をタブレットでしなければいけない場合もあります。だから、ついつい長い時間、パソコン・タブレットを見てしまうことになってしまいます。このように、メディアは私達の生活に深く関わってくる時代になってきています。

けれど、メディアは悪いことばかりではないのです。テレビでは、最新のニュースを見ることができます。私は、よく家族とテレビを見ています。クイズ番組などを見ると、家族で楽しめるし、勉強にもなります。スマホやタブレットを持っていれば、いつでもどこでも、すぐに調べ物や情報収集ができるので、とても便利です。だから、アウトメディアの取り組みが難しく感じる時があるのが現状です。

このように、メディアを排除した生活は、難しいかもしれません。そこで、上手な付き合い方を自分で見つけて、取り組んでいくことが大事だと思います。

メディアを使わなくても、本や辞典を使って調べることができます。ニュースや世間の事を知りたければ、新聞を読めばいいです。なぜなら、経済やスポーツなどの様々な情報がのっ

★部活動や学校外活動	卓球部
★好きな科目	英語
★好きなことや好きなもの	読書
★将来の夢	先生

ているからです。ひまな時や休日には、ゆったりと読書をして過ごすのもいいです。それに、家族や友達とトランプ・将棋・オセロなどの遊びをするのも楽しいです。外で体を動かしたりするのも気分転換にもなるし、健康的でいいと思います。そうすると、メディアを使わずに楽しく過ごすことができます。

私は、まだスマホを持っていません。買ってもらったら、とても興奮してしまうと思います。だから、釘付けにならないように自分でしっかりと時間を制限していきたいです。大人も子どもも、一人一人がメディアとの付き合い方をもっと深く考えていくべきだと思います。そして、自らを律した向き合い方をしていくべきだと思います。

優良賞

見逃すな！幸せの青い鳥のＳＯＳ

四日市市立内部中学校３年

米　花　歩　夢

私と友達に嫌なことがあったとき、ふいに現れる小鳥がいます。その鳥は鏡のように輝く青い羽毛を持っていて、私たちはその美しさと愛らしさに、見る度にブルーな気持ちなど吹き飛んでしまいます。だから、私と友達は、その幸せをくれる青い鳥を「幸せの青い鳥」と呼んでいます。私たちは「幸せの青い鳥」に魅了され、その鳥がよく現れる場所を、毎日、眺める癖がついてしまいました。

しかし、ここ数日、「幸せの青い鳥」は私たちの前に姿を現しません。私は、ふと、「もしかしたら死んでしまったのかも。」と思いました。

私が小学生の頃ぐらいまでは、私の町は比較的自然が残っていました。猿たちのいる森があったり、森周辺の公園では、ヘビやリス、キツツキも住んでいたりするほどでした。ですが、これも過去の話です。

私は自転車通学をしていますが、ある日を境に、突然、毎朝毎朝、鳥のフンが私の自転車に落とされるようになりました。私は、その頃はただ「鳥が大繁殖したのかなぁ。」ぐらいにしか思っていませんでした。そして後日、森の周辺を車で通りかかったとき、私は窓の外の景色に目を疑いました。数日前にはあったはずの森はなく、大量の太陽光パネルで埋めつくされていたのです。どうやら山の奥から建設されていたため、私たちは気が付かなかったようです。鳥が大繁殖したのではなく、森の住みかを失った鳥たちが町に下りてきていたのだと、そのとき、やっと私は気付きました。

その日から、私は町の環境の異変に敏感に反応するようになりました。電線にとまる色鮮やかな小鳥たちが、カラスに追われ、野良猫に襲われ、冷たい風に吹きさらされているのを私はよく目にします。最近は街路樹の枝も短く剪定されており、なかなか風よけや目隠しになる葉を持った樹木もありません。元は森にいるべき鳥たちですから、環境の変化に耐えられず、死んでしまったのでしょうか。最近は自転車にも鳥のフンは落とされません。だから、ふと、「幸せの青い鳥が姿を見せないのは、死んでしまったからかもしれない。」と思ったのです。

「太陽光発電は、エコだ。」とよく耳にします。確かに二酸化炭素の排出は抑えられ、環境に優しくできるすばらしい技術だと思います。しかし、太陽光発電というすばらしい技術は、森を伐採する今のような使い方で、本当に環境に優しくできているのでしょうか。森がなくなれば、鳥などの生物はいなくなります。川を流れる養分がなくなり魚も姿を消すでしょ

★部活動や学校外活動	ソフトボール部
★好きな科目	理科
★好きなことや好きなもの	音楽鑑賞・おやじギャグを友達と言いあって遊ぶこと
★将来の夢	環境に関わる仕事につくこと。

う。「エコだ、エコだ。」と言いながら、環境を破壊する今のような生活をしているようでは、人間は自滅への道を進んでいるにすぎないと私は思います。これらのことから、私は、身近な異変に気付き、それに対して怠らずに対策することが人間が自滅の道から抜け出す方法の一つだと考えます。

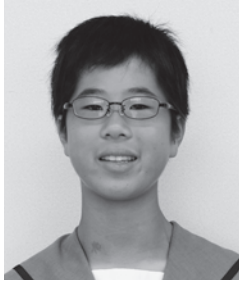
例えば、太陽光発電を森を伐採せずに活用するために、置く場所を工夫することが考えられます。多少、お金がかかるかもしれませんが、企業や団体などで協力し、既存の建物や公園のベンチの屋根に太陽光パネルを使用したり、車の車体に取りつけて、電気自動車のエネルギーの一部にしたりするのも良いと思います。

そして、身近なところで私たちが環境を守るために行動できることを探すことも必要です。

私の住む四日市市では、ゴミの焼却施設が新しくなり、可燃ゴミと不燃ゴミの分別をしなくてもよいようになりました。ですが、ゴミの分別が無くなったことで、「これは何ゴミに分類されるのかな。」という私たちにとって唯一のゴミについての思考が失われました。その結果、私たちの中の、ゴミを増やさないようにしようとする意識も薄れていってしまっているのではないでしょうか。だから、時には自分たちの生活を見直して、意識に変化がないかを問うことが私たちには必要です。

私たちは生活の便利さを追求し、しらずしらずのうちに環境を破壊しています。そして、それは身近な異変となって私たちの周りに表れます。だからこそ、その異変に敏感に反応し、丁寧に対応することが必要です。

「幸せの青い鳥」に幸せを届けてもらうのを待つのではなく、私たちが考えて、豊かな環境と共に生きていけるという幸せをつかみにいかなくてはならないのです。



優良賞

珍しいを当たり前に

名張市立桔梗が丘中学校１年

山　村　悠　月

「イクメン」という言葉を最近テレビや新聞などでよく目にします。「イクメン」とは、育児に積極的に参加する男性のことを言うそうです。私の父は、私から見ると「イクメン」だと思いますが、父は「イクメン」という言葉や「イクメン」と呼ばれることに違和感があるそうです。「イクママ」という言葉がないことから考えると、父親が育児をすることは珍しく、母親が育児をすることは当たり前という感じがして、それが父の感じる違和感につながっている気がします。確かに、私は育児は夫婦が協力して行うものだと思います。

私の家は夫婦共働きで、祖父母も遠方に住んでいます。私が小さい頃は、母の帰りが遅く、保育園の送り迎え、晩ご飯の準備、食べさせること、お風呂に入れて寝かせることなど私の身の周りのことを父がしてくれていました。今、私は３人兄弟で小学２年生の妹と、１才の弟がいます。１才の弟にはまだまだ手がかかります。私もできることが増えたので、弟のおむつを替えたり、弟をお風呂に入れたりすることがあります。一緒に遊んだり、面倒を見たりすることもできます。育児ができる人が増えても父は育児も家事もします。母が育児休業をとっている時でも、父はいつも通り私たちとの時間を大切にしてくれていました。学校行事も参加できるものには参加してくれます。母の育児休業後、母の帰りは以前よりずいぶん早くなったのですが、今でも父は家事も育児も当たり前のようにしています。

私の周りを見てみると、育児を楽しんでいる男性は増えてきているように思います。でも家事をこなし、育児もしている父のような人はなかなかいないような気がします。また「イクメン」という言葉がなくならないということは、まだ男性は女性と同じではないのかもしれません。

両親に話を聞いてみました。母親が仕事し、さらに家事も育児もしていたら、時間が足りないと言います。しかし、夫婦で家事や育児を分担すると、お互いに子どもたちと接する時間が生まれるそうです。父が晩ご飯を作っている間に、母は妹の宿題を見たり、弟のノートに目を通したりすることができます。母が洗濯を干している間に、父は弟たちと一緒に布団に入り、今日あったことを聞くことができます。仕事以外に家事や育児をすると、負担が増えるように感じますが、夫婦で協力しているから、子どもたちと接する時間がそれぞれに生まれ、もっと仕事をがんばろうという気持ちになるのだそうです。

また、男性の育児休業の取得率を上げようという取り組みもありますが、育児は子どもが成人するまで続くことだから、毎日どのように育児に関わっていくかが大切なのではないか

★部活動や学校外活動	ハンドボール部
★好きな科目	理科、美術
★好きなことや好きなもの	書道、百人一首
★将来の夢	薬剤師

と思います。父は、育児休業はとっていませんが、毎日必ず台所に立つし、私たちの話を聞いてくれます。

改めて、父に聞いてみました。父は特別に家事や育児をしているという意識はあまりなく、自分に必要なことをしているだけだと言いました。そして、家事や育児を効率よく進めるために、細かく分担を決めず、その時にできる人がやるという分担の仕方で、今までやってきたのだそうです。私自身も、父や母がしていることを見たり聞いたりして、自分が人として生きていくために必要なことができるようにならなくては、と思いました。

私の祖父も家事や育児を普通にしており、私の身内の男性は、家事や育児もできます。このような環境は、今は珍しいのかもしれませんが、私たちが大人になる頃には、それが当たり前の世の中になってほしいなと思います。

審査委員の皆さま

審査委員長	駒田　美弘	国立大学法人三重大学　学長
審 査 委 員	間野　丈夫	三重テレビ放送株式会社　取締役
	中西　正典	度会町教育委員会　教育長
	松井　幸生	三重県小中学校長会　幹事（志摩市立安乗中学校 校長）
	美濃　松謙	三重県ＰＴＡ連合会　常任幹事
	小林　静子	三重県教職員組合　中央執行副委員長
	福永　和伸	三重県健康福祉部子ども・家庭局　局長
	水元　　正	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団　副理事長

審査委員の講評（順不問・敬称略）

【審査委員長】駒田　美弘（国立大学法人三重大学　学長）

中学生のメッセージ2017（第39回　少年の主張　三重県大会）には、73校　12,631人の中学生が、それぞれ鋭い感性で、自分自身の感じたこと、主張したい意見を書き綴った作文を応募されました。その中から、地域優秀者14名の方が選ばれ、最終審査の場で元気に発表をされました。テーマは多岐にわたり、未来社会への希望、身の回りで起こっている出来事への意見、テレビ、新聞などで注目されている課題に対する提案など様々です。社会では、少子高齢化、グローバル化、第４次産業革命など大きな変化の波が押し寄せています。加えて競争の原理が過度なまでに社会を支配しつつあり、中学生の皆さんも将来に不安を感じることもあると思います。このような困難な時代の将来を生きていく皆さんが、日頃感じていることや考えていることを多くの人に訴えることにより、自分自身の将来の生き方、社会との関わりを考えるとともに、社会の多くの人々に、中学生が今、何を考え感じているのかを理解していただくことは、極めて大切なことであると思います。

審査委員の総評

地域優秀者14名の発表作文は、いずれも私たちの心に響く素晴らしい内容でした。審査委員の作文に関する主な総評としては、

●身の回りのテーマについて、自分自身の言葉で述べ、その内容も伝わり易い。

●社会問題をテーマとする作文は、関連する資料を提示し、自分の意見をしっかりと述べている。

●先生の指導が入っていない中学生の思いそのものがしっかりと詰まった文章です。

14人の皆さんの発表に関しては、緊張している様子も窺えましたが、中学生らしく好感が持てました。発表態度も、会場いっぱいの聴衆に視線を送りながら、身振りをまじえ、語りかけ、一生懸命の発表でした。

審査委員の主な意見（発表順）

①「誰もが生きやすい社会」（石河　圭太くん）

障がいとは、「社会での生きにくさ」であり、相手の立場に立って行動すべきという意見を述べられました。最初の発表者のため、特に緊張していたでしょうが、ひとつひとつの言葉も聞き取りやすく、落ち着いた発表でした。障がいを持つ人をまずは理解し、思いやりを持って接したいという優しい気持ちがよく伝わってきました。

②「LGBTへの理解と配慮」（臼井　絢香さん）

人は少数派に対して攻撃をする悪い習慣を持っているので、まずは、「違いを認めること」

から始めたいという意見を主張されました。マイクの位置をなおして、気持ちを落ち着けてから発表を始められました。はきはきとした言葉で、原稿を全く見ずに、堂々と発表をされました。

③「生命のつながり」（梅澤　瞭太くん）

動物には、思い出、大切な家族、そして何よりも大切な命があるのに、それが失われている。自分なりにできることをしていきたいと述べられました。緊張していても、会場のいくつかの方向に視線を向けながら、文章の最後まではっきりと聞き取れる発表でした。

④「言葉と態度　～人と人とを繋ぐもの～」（梅田　颯くん）

「ふーん」という言葉が相手を傷つけた体験から、相手の気持ちを思って話すことが大切と述べられました。緊張しているにも関わらず、落ち着いて発表されました。話し言葉ではなかったので少し読んでいるように感じられましたが、発表者の優しさは十分に感じることができました。

⑤「弱点は宝物」（大西　諒くん）

人の持つ弱点はマイナスではなく人を成長させるものであり、周りの人への思いやりに気づける宝物であるというプラス思考の発表内容です。１年生なので３年生の発表者と比べるとかわいい男の子の元気いっぱいの主張でした。しっかりと自分の考えを伝えようとする強い気持ちが、とてもよく伝わってきました。

⑥「これからの防災と私たちの声」（北裏　功くん）

自分たちが率先して、地域の防災意識を高めていきたい、率先避難者にならなくてはという決意を述べられました。視線を会場の右左に向けながら話されました。話し言葉ではなかったですが、一つ一つの言葉を丁寧に話され、しっかりとした決意の伝わる発表でした。

⑦「命の重み」（北端　梨桜さん）

かわいい犬や猫は、健康に生きていても明日が無くなることへの疑問と怒りを感じ、殺処分ゼロに協力したいと述べられました。手振りを交えながら抑揚をつけて語るように話されました。声の大きさ、話す速度、表情も、話の内容にうまく合わせていましたので、聞き手にも発表者の気持ちがよく伝わってきました。

⑧「認めあう社会」（三田　京佳さん）

障がいの有る無しに関係なく、お互いを認めあう社会を目指したいと主張されました。視線を会場に向けながら、語りかけるように発表をされ、妹を思うお姉さんとしての気持ちがとてもよく伝わりました。

⑨「情報社会に生きる」（曽我　萌々子さん）

あふれている便利な情報を、しっかりと自分で選び取り、使いこなす努力が必要ですと述べられました。落ち着いて、ハキハキした声で発表され、聞き手に発表者の強い決意が伝わる力強い発表でした。

⑩「LGBT」（平山　奈那美さん）

人は物事を決めつけてしまい、それに反していると違和感を感じてしまうことが多くなる。性別に関しては、もっとカラフルになってほしいと主張されました。LGBTの説明も原稿につけ加えて発表をされました。身振りを使って話されましたので、話し言葉ではなかったですが、かえって発表者の気持ちがよく伝わってきました。

⑪「アウトメディア」（廣瀬　ことは　さん）

スマホ、ゲームを含め、メディアとの上手につき合い方を、自分で見つけていくことが必要と主張されました。かわいい１年生の発表で、思わず笑顔になってしまいました。正面ばかり見ているのかなと思っていたら、突然ストレートネックのポスターを見せての一生懸命の発表でした。

⑫「見逃すな！　幸せの青い鳥のSOS」（米花　歩夢さん）

環境破壊で「青い鳥」がいなくなっています。自分たちが豊かな環境と共に生きていける幸せをつかむことが必要と述べられました。幸せの「青い鳥」がいなくなってしまったこと、鳥の糞を自転車にかけられたという身近な変化から、このままでは人間社会が滅びることを本当に心配している気持ちがよく伝わりました。

⑬「働きすぎではないですか？」（細井　亜弥乃さん）

日本は、労働環境・労働条件に関しては開発途上であり、働くことで自分や周りの人を犠牲にしています。ワークライフバランスが大切ですと主張されました。とても力強い発表で、手振りも交えながら、ご両親を思いやろうという気持ちがよく伝わりました。

⑭「珍しいを当たり前に」（山村　悠月さん）

珍しいかもしれない「イクメン」が､将来は当たり前になってほしいと述べられました。日焼けした健康でかわいい１年生が、しっかりとお姉さんの役目を果たしていると感じました。いつも笑顔いっぱいの、すばらしいご家族の様子が浮かんできました。

いずれの作文・発表も聞いている多くの人に感動を与える素晴らしいものでしたが、審査委員全員一致で、最優秀賞１名、優秀賞３名、優良賞10名を決めさせていただきました。発表された皆さんは、自分の意見を述べることの大切さをあらためて感じるとともに、多少の心地よさも感じられたのではないかと思います。また、家族の皆さんを含め関係者の皆さんには、日本の未来を担う発表者の成長を温かく見守るとともに、多いに期待もしていただければと思います。

最後に、主催者の公益財団法人三重こどもわかもの育成財団、南勢志摩地区中学生のメッセージ実行委員会、独立行政法人国立青少年教育振興機構をはじめ、当日の運営に参加・担当していただいた開催地区の中学生、鳥羽市能楽保存会、玉城中学校吹奏楽部の皆さん、地域の教育委員会、教育・学校関係者の皆さま等、多くの方のご支援ご協力をいただき、「中学生のメッセージ2017」が準備・開催され、素晴らしい成果をあげられましたことに心からのお喜びを申し上げます。

【審査委員】間野　丈夫（三重テレビ放送株式会社　取締役）

「一億総活躍社会」「みんなが輝く社会」。政治の掛け声は、国民を全部ひとくくりに考えているように聞こえます。しかし、どんなに頑張っても、一般的な意味で「活躍」できない人がいるし、いろいろな事情から「頑張ろう」という気持ちさえ起きない人もいます。中学生たちは、そこをちゃんと見ています。違いを認め合い、弱点を大切にする。男女の違いは、明確な境界線があるわけではなく、ゆるやかなグラデーション（段階的変化）だ。「違い」や「弱さ」をあるがままに認め合って、それぞれができることをしよう。人々のさまざまな違いが怒りとなって噴き出している社会にあって、認め合う意志を持つ中学生たちと出会ったことは、私たちにとっても大きな希望となりました。

【審査委員】中西　正典（度会町教育委員会　教育長）

「弱点は自分を高める宝物…。恥ずかしがらずに前を向くことで新しい自分が生まれる…。」（最優秀賞）という力強い言葉にじっと聴き入る自分がいました。

人は大人になる課程の中で喜び、悩み、怒り、悲しみにであいます。数多くの経験を重ねながらそこから生み出される感動を礎に成長していきます。

今大会にはたくさんの感動と勇気と思いが凝縮されていました。14名の皆さんの発表は採点する立場を後悔するほどすべて素晴らしいものでした。重く厳しい内容と感じる場面もありましたが、皆さんの明るくしっかり未来に向かって自分の言葉で熱心に語りかける姿には瑞々しさが溢れていました。

それぞれのテーマを心に宿し、私たちに投げかけている心の在り方は様々ですが、すべて「あたたかさ」に満ちていました。説得力のある話し方や落ち着いた言動に加え、家族や友人や社会を見る目の根底に「愛」が支えとなっていることに強く感動しました。

なお、大会がたくさんの参加協力中学校によって運営されていることに心から感謝とお礼を申し上げたいと思います。

【審査委員】松井　幸生（三重県小中学校長会　幹事〈志摩市立安乗中学校　校長〉）

「中学生のメッセージ2017（第39回 少年の主張 三重県大会）」に参加させていただき、たくさんの感動や元気、そして勇気をいただいた１日となりました。ステージから主張発表をしてくれた14名の皆さんは少し緊張した様子も見られましたが、落ち着いて自分の思いや考えを私たちに熱意をもって語ってくれました。そのテーマにはそれぞれ違いはありましたが、どの内容も豊かな感性にあふれ、共感や感銘を深く与えてくれるものでした。説得力のある話し方や、聴衆を見て堂々と話している様子もとても印象に残りました。私自身、この大会に参加させていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、この大会の運営に参加協力してくれた中学生等の皆さん、本当にありがとうございました。

【審査委員】美濃　松謙（三重県PTA連合会　常任幹事）

三重県PTA連合会を代表して審査委員をさせていただきました。各学校で選抜された皆様の作文や発表はどれも素晴らしく、とても感心いたしました。

今回の審査基準の中で、「鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）」の項目がありました。皆様の発表を拝聴しながら、中学生らしさってなんだろうと考えていました。私の答えは「明るい未来」です。人生時計という考え方があります。それは、自分の年齢を３で割るものです。15歳の場合は５です。皆さんの年齢は一日の中で朝の５時ということです。まだ、眠りから覚めたかどうかの微妙な時間帯です。目覚める少し前で夢を見ている時間帯かもしれません。まだまだ、これから様々な未来が待っているということです。

では、未来が明るいかどうかを誰が判断するのか。それは、皆さん一人ひとりの考え方です。今、生活している環境が晴れているのか、曇っているのか、雨が降っているのか。わかりやすく天気に例えると、遊びに行くから晴れて欲しい人、暑い夏に外で作業するから曇って欲しい人、農作物の為に雨が降って欲しい人、それぞれ求めるものは違います。また、コップの半分に入った美味しい水を出されて。「半分あれば十分」、「もっと欲しい！」と思う人とそれぞれ考え方を変えるだけで、満足と不満が替わります。

最優秀賞に選ばれた「弱点は宝物」はまさに考え方を変えることで、幸せになれたという発表は一番心に残る内容でした。まずは、自分が変わることの大切さを教えていただきました。

中学生らしい皆さんの視点で今の世の中がどのように見えているのか、今後も楽しみにさせていただきたく思います。

発表者の皆様、お手伝い頂いたスタッフ係の皆様、能や演奏を披露していただきました皆様ありがとうございました。

【審査委員】小林　静子（三重県教職員組合　中央執行副委員長）

14人の応募作品を読ませていただき、まずは中学生の皆さんの豊かな感性と純粋な感覚に驚き、当日の発表ではまっすぐに前をみて、自分の言葉で思いを伝えようとする姿に感動しました。

テーマは身の回りの問題から、社会全体、ときには世界的な課題となっていること、また、LGBTや働き方に関わるような新しい課題までさまざまで、その課題解決のために自分ならどう考え、どう行動するか、そしてその先の未来を自分はどうしたいのか、一人ひとりのメッセージが聞いている私たちの心に熱く響いてきました。それは、未来への希望のメッセージでした。このメッセージが一人でも多くの人たちに届いてほしいと思います。

最後に大会を支えていただいた多くの中学生の皆さん、実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。

【審査委員】福永　和伸（三重県健康福祉部子ども・家庭局　局長）

中学生のひたむきな発表に心が洗われる素晴らしい大会でした。
この瞬間に立ち会えたことを大変嬉しく思います。

「どの命も大切であり、つながり合っている」、
「弱点のおかげで成長できた」、
「情報は、使い方次第で、タイムマシンやどこでもドアになってくれる素晴らしい道具だ」―――

何というみずみずしい感性なのでしょう。

そこには、中学生だからこそ感じ取れる「真実」と、中学生にして早くも到達した「気づき」とが交錯していて、胸が強く揺さぶられる気がしました。

発表者の皆さんには、感謝の思いでいっぱいです。

皆さんが今回の貴重な経験を生かし、豊かな未来を切り拓いていかれることを心よりお祈りしています。本当におつかれさまでした。

【審査委員】水元　正（公益財団法人三重こどもわかもの育成財団　副理事長）

中学生が今何を感じ、どうしたいのか、どう対処するのか、向合って今を考えて、その中にも温かさ思いやりが感じられ本当に心温まり、また、発表の態度も堂々として見とれてしまいました。

純粋に、真剣に取り組み、自分の意見を持ち、障がい者に対する温かい柔らかい思い、スマホ、環境問題、LGBT等幅広い問題提起に感心しました。今、中学生を取り巻く環境は何なのか、学校、家庭、地域での出来事等を自分で考え、家族で考え、地域、学校、友達で考え自分はどうしたらよいか、悩み苦しむ、また、大きく羽ばたこうとする希望に満ちたさわやかな中学生を表現してくれました。

今年も発表会に中学生が中学生の為に受付から案内、そして吹奏楽と本当にありがとうございました。

大会概要

1　応募の状況

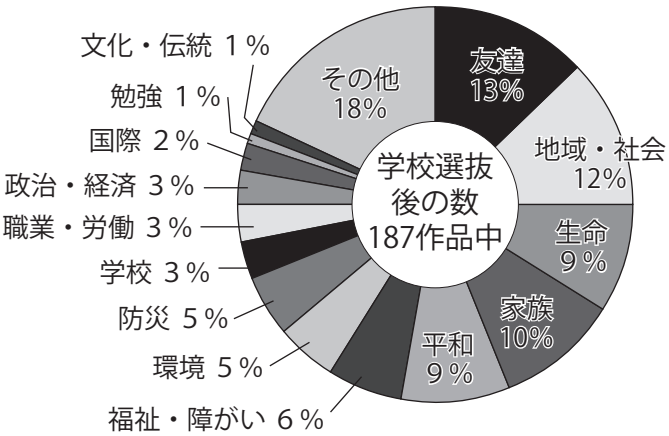
（1）　応募者数

地　区　名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
北　　勢	3,519	6,717	3,772	7,985	5,177
津	778	462	327	766	845
松　　阪	603	533	534	545	534
南勢志摩	277	247	255	226	3,590
伊　　賀	2,027	1,835	2,009	1,926	2,052
紀　　北	359	360	291	303	286
紀　　南	225	197	697	170	147
計	7,788	10,351	7,885	11,921	12,631

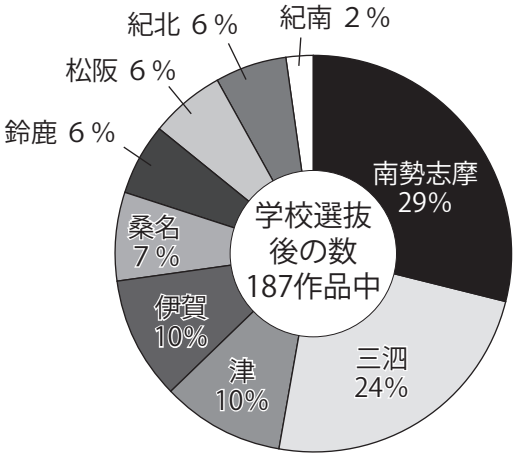
応募作品のテーマ・地域別の内訳

応募点数 12,361 の内、学校における選抜を受けて
当財団に提出された 187 作品の内訳です。

テーマ別



地域別



(2)　選考の過程

1．県大会

参加者数 12,631 → 学校選抜後 187 → 第1次審査通過者 45 → 第2次審査通過者 14 → 最終審査

- 最優秀賞 1
- 優 秀 賞 3
- 優 良 賞 10

第1次審査通過者 45 → 地域優秀賞 31

2．全国大会

県大会の最優秀受賞者は中部・近畿ブロック審査へ → 中部・近畿ブロック12府県のうち3名が全国大会出場へ → 中部・近畿ブロック代表者3名を含む12名のブロック代表者が全国大会出場へ

2　地域優秀賞受賞者一覧

No.	学　校　名	学年	名　　前	タイトル
1	桑名市立正和中学校	2	神谷桜子	私のひいおばあちゃん
2	桑名市立多度中学校	3	古瀬蒼真	地球温暖化による影響と対策
3	四日市市立塩浜中学校	2	今村友翔	人権を守るために必要なこと
4	四日市市立大池中学校	3	川田絢子	「大切な一言」
5	四日市市立西朝明中学校	3	中川日和	私の好きなもの
6	四日市市立桜中学校	3	佐藤萌花	自分の意思を伝えるということ
7	四日市市立桜中学校	3	西村健士郎	知ることが大切
8	四日市市立楠中学校	2	小池希実	「いじめを減らすために」
9	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	3	安藤丈一郎	日本の今の政治について
10	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	3	木立実里	「平和」について考えたこと
11	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	3	田中菜生	「友達」
12	鈴鹿中学校	1	湯田天馬	知っていますか？里親制度
13	鈴鹿中学校	3	落合真弘	日本に必要なイノベーションとは、１％のひらめきと99％の努力ではなく50％の『こども力』と50％の『おじいちゃん力』である。
14	津市立朝陽中学校	3	辻　柚梨	私の大事な経験
15	津市立白山中学校	3	鏡　由衣	真剣に、深く、知る
16	松阪市立大江中学校	3	駒谷いおた	「ストップ過疎化。力を貸そか。」
17	伊勢市立豊浜中学校	3	小西陽花梨	私の町－伊勢市－
18	伊勢市立北浜中学校	3	浅田　凜	あたりまえのなかに
19	伊勢市立城田中学校	3	世古口夢菜	「祖母のありがとう」
20	伊勢市立五十鈴中学校	1	中西凛雄	情報化社会の中で
21	伊勢市立御薗中学校	2	平田京妃	スマートフォンの在り方
22	皇學館中学校	3	淺原由衣	大切な宝物
23	皇學館中学校	3	西山朱音	指摘が生み出すもの
24	玉城町立玉城中学校	2	八木琴香	「生きている」
25	南伊勢町立南勢中学校	3	西村茉夏	命の重み
26	名張市立北中学校	1	住田心来	応援する、してもらう立場
27	名張市立南中学校	2	礒部真菜	高齢者社会
28	名張市立南中学校	3	平尾優奈	人に与える夢
29	尾鷲市立尾鷲中学校	2	大川さくら	あたりまえの幸せ
30	紀北町立潮南中学校	3	直江響希	今できることは
31	御浜町立御浜中学校	2	山田葉乃音	お父さん

3　学校奨励賞受賞校一覧

No.	学　校　名	No.	学　校　名
1	桑名市立成徳中学校	22	伊勢市立豊浜中学校
2	桑名市立明正中学校	23	伊勢市立北浜中学校
3	桑名市立光風中学校	24	伊勢市立城田中学校
4	四日市市立橋北中学校	25	伊勢市立五十鈴中学校
5	四日市市立塩浜中学校	26	伊勢市立二見中学校
6	四日市市立富洲原中学校	27	伊勢市立小俣中学校
7	四日市市立富田中学校	28	伊勢市立御薗中学校
8	四日市市立西陵中学校	29	皇學館中学校
9	四日市市立保々中学校	30	鳥羽市立加茂中学校
10	四日市市立三重平中学校	31	志摩市立大王中学校
11	四日市市立西朝明中学校	32	大紀町立大宮中学校
12	暁中学校	33	南伊勢町立南勢中学校
13	鈴鹿中学校	34	南伊勢町立南島中学校
14	津市立橋南中学校	35	伊賀市立柘植中学校
15	松阪市立大江中学校	36	名張市立名張中学校
16	多気町松阪市学校組合立多気中学校	37	名張市立赤目中学校
17	多気町立勢和中学校	38	名張市立桔梗が丘中学校
18	伊勢市立倉田山中学校	39	名張市立北中学校
19	伊勢市立厚生中学校	40	名張市立南中学校
20	伊勢市立伊勢宮川中学校	41	紀北町立三船中学校
21	伊勢市立港中学校	42	御浜町立御浜中学校

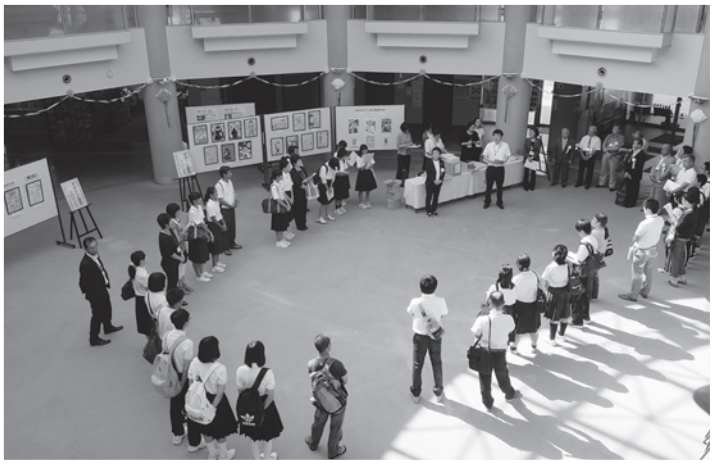
※学校奨励賞は、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50％以上）が受賞されました。

大会メモリアル

伊勢市生涯学習センターいせトピア　2017.8.27

当日の大会会場

9：00
運営中学生・実行委員会が集合しました。



9：30
朝の打ち合わせ、
「エイ、エイ、
　　オー！」の
掛け声でスタートです。

先生のコメント
大きな行事への参加は、
達成感あり、他校の生徒との
交流もありで、充実した
１日でした。
（志摩市立磯部中学校）

受付開始

案内の様子

本番前には
太田理事長よりエールが贈られました。

13：00 開会
落ち着いて堂々とした司会

来場者のコメント
会場に入ったときの
さわやかなあいさつに始まり、
中学生が大活躍していたこと
が、とてもよかったです。

南勢志摩地区実行委員会の皆さん

来賓の皆さん

主催者の挨拶

伊勢市長の歓迎挨拶

13：20 いよいよ発表のスタートです！

応援メッセージ展

三重県知事をはじめ、協賛企業・団体様から中学生へ向けて応援のメッセージをいただきました。

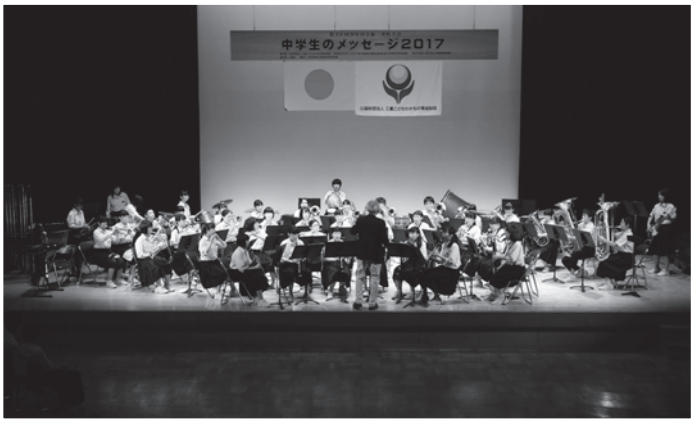
会場は満席でした！

デザイン画展

応募数 236 点の中から選ばれた優秀作品 37 点を展示

伊勢市立倉田山中学校 3 年坂上空優さんの作品がプログラム表紙を飾りました。

玉城中学校吹奏楽部による演奏



来場者のコメント
自信に満ちた楽しそうな演奏で、会場が一体になり心おどりました。

鳥羽市能楽保存会による子ども狂言

来場者のコメント
伝統ある文化を若い子どもたちが立派に引き継いでいる姿に感動した。

今年も中学生が大活躍！

中学生と大人が燃えた！夏休み最後の日曜日

厳正なる審査中

15：40　待ちに待った表彰式

表彰アシスタントも中学生！

中学生のコメント

普段できない裏方の仕事ができたので、良かった。これからの生活にも活かしていきたい。

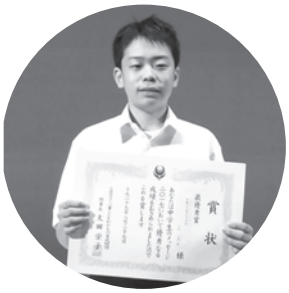
（南伊勢町立
南勢中学校）

駒田審査委員長による講評

16：00　運営協力の中学生の皆さんへ
森会長から感謝状の贈呈。

受賞者のコメント

最優秀賞に選ばれてびっくりしました。
大会前に先生や家族と練習をして当日を迎えました。
会場の皆さんに私の発表を真剣に聞いていただけて
嬉しかったです。
（伊勢市立厚生中学校　１年　大西諒さん）



次回開催の津市青少年育成市民会議
槌谷会長にバトンが渡されました！

【司会・表彰アシスタント・受付・案内】
伊勢市立五十鈴中学校・鳥羽市立加茂中学校
志摩市立磯部中学校・玉城町立玉城中学校
度会町立度会中学校・大紀町立大宮中学校、
大紀町立大紀中学校・南伊勢町立南勢中学校

【子ども狂言公演】
鳥羽市能楽保存会

【吹奏楽演奏】
玉城町立玉城中学校

【デザイン画】
伊勢市立倉田山中学校　３年　坂上空優さん

中学生への応援メッセージ

中学生へ三重県知事様、三重県議会議長様、協賛企業・団体様から
あたたかい応援メッセージをいただきました

**仲間と力を合わせて
未来に向かって
突き進め!**

三重県知事　鈴木英敬

**全ての経験は、
あなたの将来の糧となります。
恐れず一歩を踏み出そう。**

三重県議会議長　舟橋裕幸

**無限の可能性を信じて
挑戦し続けてください。**

海女小屋　はちまんかまど

**君たちの未来
自分の地平を広げれば
無限の可能性が開かれる**

伊勢南ロータリークラブ
会長　荒木俊明

夢の種を蒔こう！

岡三証券株式会社松阪支店
支店長　谷田和之

人生は、夢だらけ。

株式会社かんぽ生命保険三重支店
支店長　荒木　智

俯瞰(ふかん)せよ！

北村物産株式会社
代表取締役社長　北村傳裕

**Also
challenge
everything!**

株式会社玉城
代表取締役　中東雅彦

**失敗を恐れず
挑戦する自分に
自信を持とう!**

JAバンク三重

**次世代の三重県を担う
貴方たちを応援します。**

社会福祉法人志摩市社会福祉協議会

**無限の可能性を秘めた
君たちの未来を
応援します。**

新日本工業株式会社

何事もチャレンジ!

株式会社ぜにや
代表取締役　中東雅彦

**第三銀行は
夢を追いかけるあなたを
応援します!**

株式会社第三銀行
取締役頭取　岩間　弘

**夢をつかむ権利は
夢に向かって努力したものだけに
与えられる。
夢を持って　頑張れ!!**

株式会社ダイム

**自分を信じて、
夢に向かって
突き進もう!**

千巻印刷産業株式会社
代表取締役　塚本　誠

**君たちには輝ける未来がある。
夢は自分の手でつかみ取ろう**

株式会社津松菱
代表取締役社長　西村房和

**チャレンジこそ
未来を開く!**

鳥羽の加茂牛　木田農場

**大志を抱け
道を拓け**

有限会社二軒茶屋餅角屋本店
代表取締役社長　鈴木成宗

**夢は無限!
自分を信じて
進んでいこう!**

パイロットインキ株式会社
津工場長　太田義之

**夢に向かって
挑戦しよう!!**

フルノケミテック株式会社
代表取締役　古野　潔

今を生きる。

株式会社前田組
代表取締役　前田　哲

**大丈夫
努力は必ず
実(じつ)となる**

公益社団法人三重県医師会

**いつもチャレンジ
経験を糧に
未来をつかめ!**

一般社団法人三重県建設業協会志摩支部
支部長　橋爪吉生

**何にでもチャレンジ!
未来が開くその言葉**

特定非営利活動法人
三重県歯科衛生士会

**君たちは未来の宝
健やかに育て!**

一般社団法人三重県薬剤師会

**希望に向かって
自分の信じた道を**

三重信用金庫

**1日1日を大切に。
夢に向かって
歩んで行ってください。**

株式会社ミヤハマワークス

**夢に向かって
今、
この瞬間を大切に!**

株式会社森組
代表取締役　森　修

敬称略、五十音順

**自分よりも他人を先に
思いやりの心で
頑張って下さい。**

株式会社森電気商会

協賛企業・団体紹介 ※五十音順

海女小屋はちまんかまど	伊勢南ロータリークラブ	岡三証券 OKASAN SECURITIES	人生は、夢だらけ。 かんぽ生命
北村物産株式会社	ふれあい・たいせつに ぎゅーとら	GOODAY グッディ	JAバンク三重
社会福祉法人志摩市社会福祉協議会	伝える喜び、これからも 新日本工業株式会社	食材工房 zeniya	第三銀行
ごちそういっぱい ダイムグループ	CHIMAKI 伝わるコミュニケーションで未来を創造する 千巻印刷産業株式会社	松菱	鳥羽の加茂牛　木田農場
有限会社二軒茶屋餅角屋本店	有限会社ニューライト	PILOT	百五銀行 FRONTIER BANKING
フルノケミテック株式会社	quick mæda 株式会社　前田組	(公社)三重県医師会	(一社)三重県建設業協会志摩支部
公益社団法人 三重県歯科医師会	特定非営利活動法人 三重県歯科衛生士会	(一社)三重県薬剤師会	Mie Kotsu Group 三重交通
三重信用金庫	株式会社ミヤハマワークス	有限会社森井電機	MORIGUMI
株式会社森電気商会			

本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。

参考資料１

中学生のメッセージ2017（第39回少年の主張三重県大会）実施要項

１．目　的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として実施します。

２．主　催　公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
南勢志摩地区中学生のメッセージ実行委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

３．共　催　三重県

４．協　力　青少年育成市町民会議

５．後　援　三重県教育委員会・伊勢市教育委員会・鳥羽市教育委員会・志摩市教育委員会
玉城町教育委員会・度会町教育委員会・大紀町教育委員会・南伊勢町教育委員会
三重県私学協会・三重県小中学校長会・三重県PTA連合会・三重県教職員組合
NHK津放送局・三重テレビ放送株式会社・株式会社中日新聞社

６．大会期日・場所
期日　　平成29年８月27日（日）
場所　　伊勢市生涯学習センターいせトピア　多目的ホール　（伊勢市黒瀬町562-12）

７．応募資格
県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある方。
※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、平成28年度在籍の３年生は応募できません。

８．応募内容
①社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
②家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど。
③テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

９．応募方法
（１）１人１点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議（以下、市町民会議という）等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できます。
（２）原稿用紙は、Ａ４版400字詰め原稿用紙３枚半以上４枚半以下で縦書きに清書してください。※詳しくは、別紙１の原稿用紙記入方法を参照してください。
（３）各学校等において３点以内に選考し、応募作品一覧（別紙２）を添付のうえ、下記提出先に提出してください。
（４）応募作品一覧（別紙２）には、作文の基調となっている最も適当なテーマ１つを下記より選び記入してください。

基調テーマ分類
「友達」、「家族」、「福祉・障がい」、「学校」、「勉強」、「生命」、「文化・伝統」
「地域・社会」、「環境」、「職業・労働」、「政治・経済」、「国際」、「平和」
「防災」、その他（　　）

（５）提出先・提出期限
・各中学校等は、平成29年６月２日（金）までに当該地域の市町民会議に提出してください。市町民会議は作品を取りまとめ、６月７日（水）までに公益財団法人三重こどもわかもの育成財団（以下、育成財団という）へ提出してください。
・市町民会議の連絡先については、別紙３を参照してください。

10．第１次審査会
第１次審査会は育成財団で行い、提出された作品の中から40人程度を選考します。

11. 第２次審査会

第２次審査会は育成財団で行い、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成し、提出された作品の中から「中学生のメッセージ」で発表する14人と地域優秀者26人程度を選考します。なお、発表者へは７月上旬に連絡します。

12. 三重県大会「中学生のメッセージ」

（１）発表

・大会発表者は「中学生のメッセージ」において、自らの作文をもとに発表します。また作文をもとにした発表方法に加えて、パフォーマンス（写真を使用したパネル説明や小道具を使用する等）を取り入れてもよいこととします。なお、準備の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

（２）審査

・大会当日、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成する審査委員会で審査を行い、各賞を決定します。

・審査基準は以下の通りです。

【論旨】 ①鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
②新しい情報や視点があるか。
③個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
④提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
⑤論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

【論調・態度】①落ち着いて話していたか。
②聴衆に深い感動や強い印象を与えていたか。
③主張の内容が共感と感銘を与えているか。
④説得力のある話し方であるか。
⑤話しぶりに熱意と迫力があるか。

第１次審査会及び第２次審査会の審査基準

三重県大会の審査基準

（３）表彰

①三重県大会の審査委員会で審査のうえ、「最優秀賞」（１人）、「優秀賞」（３人）、「優良賞」（10人）を決定し、賞状と副賞を贈呈します。

②大会発表者以外の地域優秀者には「地域優秀賞」として、賞状と副賞を贈呈します。

③積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上とする）に「学校奨励賞」として、賞状と副賞を贈呈します。なお、作品応募者全員には、参加賞を贈呈します。

13.「少年の主張全国大会」への推薦

「中学生のメッセージ」の最優秀者は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者として推薦されます。中部･近畿ブロック審査（作文･音声審査）でブロック代表者（各ブロック２～３人）に選ばれた場合は、東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表していただきます。

14. その他

（１）応募作品の返却はしないのでコピーをして保管してください。

（２）大会前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。同様に、大会後、大会の結果、発表作品（最優秀賞）、発表者･入賞者の紹介（学校名･学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。

（３）大会後、大会発表者の発表作品や写真を掲載した発表作品集を作成し、県内中学校や関係機関等に配付します。その他、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。

（４）当事業に協賛いただける企業・団体を募集します。協賛いただいた企業・団体にはパンフレット、広報誌、作品集等で名称を紹介させていただきます。

問い合わせ先
公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
〒515－0054　松阪市立野町1291　中部台運動公園内
TEL：0598－23－7735　FAX：0598－23－7792　E-mail：ikusei@mie-cc.or.jp

参考資料２

第39回
少年の主張全国大会
～ わたしの主張 2017 ～

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

内閣府子ども・若者育成支援
強調月間（11月）関連事業

平成29年11月12日㈰　13：00～
国立オリンピック記念青少年総合センター

プログラム

13:00　開会

13:20　主張発表
（12名の中学生が“わたしの主張”を発表します）

15:00　努力賞表彰式

15:20　審査発表及び表彰式
（内閣総理大臣賞を含む三賞を発表します）

16:00　閉会

大会のねらい

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、わが国の社会や国際的な環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心をもち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身に付けることが大切です。

これらの契機となることを願い、また、過去38回の実績を踏まえ、「少年の主張全国大会」を実施します。

発表者（発表順）

1 岩手県代表

小野寺　悠来
奥州市立東水沢中学校　3年

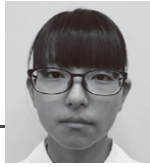
得意なことを数えよう
（発表内容の主旨）
小学生の時「発達障害」と診断され、人との違いに悩み苦しんだ。そんな中、寄り添ってくれた友達、様々なチャンスをくれた家族、そして認めてくれる先生に支えられ、前向きになれた。「出来ない事を数えるのではなく、得意な事を数えよう。」この考え方が、今の私を支えている。

2 宮城県代表

森川　まどか
仙台市立桜丘中学校　3年

配膳台のプロフェッショナル
（発表内容の主旨）
仕方なく引き受けた給食の配膳台係。脚光を浴び表舞台に立つ他の係をうらやましく思いながら、配膳台の準備や後片付けなどを一つ一つ地道に取り組んでいくうちに、一生懸命に働き工夫しながら仕事を進めることに充実感を持つようになった。どんな目立たない仕事でも前向きに取り組み、皆の役に立っていきたい。

5 群馬県代表



森田　愛美
太田市立南中学校　3年

私は、私の足で生きていく。
（発表内容の主旨）
幼い頃から義足で生活しており、挑戦できないことがたくさんあった。しかし、似た境遇を受け入れている他者や、演劇部での活動を通し、障害により奪われたと思っていた「勇気」は、自分自身の中に仕舞い込んでいたことに気付いた。個性とは、障害の有無などではなく、様々な心の葛藤からたどり着いた先にあるもの。その個性を磨き、「私」を表現して生きていきたい。

6 愛知県代表

荒島　彩乃
蒲郡市立蒲郡中学校　3年

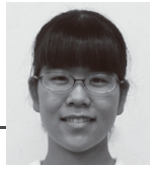
たった一言が言えなくて
（発表内容の主旨）
4年前に病気で亡くした母に、生前はわがままを言ったり、素直になれなかった。大切な人を亡くしてから、その愛情の深さに気付き、「ありがとう」という言葉を言えなかったことに後悔している。
ありふれた日常の中にある、身近な人の思いに対し、丁寧に向き合い、感謝の気持ちを伝えていきたい。

9 島根県代表

井手上　漠
海士町立海士中学校　3年

カラフル
（発表内容の主旨）
女の子がする遊びのほうが合っている気がしたり、長い髪型だったりする自分が、人とは違う、変わっているのではないかという思いに悩んでいたが、ありのままの良さを認めてくれた母親に支えられ、自分らしく堂々と生きることを決意した。誰もが自分を自由に表現でき、多様さを認め合える世界をみんなで作っていきたい。

10 岡山県代表



國府　優花
岡山県立倉敷天城中学校　3年

その向こうに
（発表内容の主旨）
スマートフォンによるラインなどのやりとりで返信を待つ間のもどかしさと、離れた友達との文通で待つ間のわくわくした気持ち。それぞれの待つ時間は、自分の都合ではなく相手の都合を尊重し、相手のことを「思う」気持ちが違うのだと分かった。
今の時代だからこそ、「待つ」ことの重要性を再確認しなければならない。

主催／国立青少年教育振興機構
協力／都道府県、公益社団法人日本 PTA 全国協議会、青少年育成都道府県民会議、全日本中学校長会、日本私立中学高等学校連合会
後援／内閣府、文部科学省、東京都教育委員会、NHK、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本新聞協会、社会福祉法人全国社会福祉協議会

審査委員会

○審査委員長　松本 零士　日本宇宙少年団 理事長

○審 査 委 員

内海　房子	国立女性教育会館 理事長	疋田　啓二	日本PTA全国協議会 副会長
梶川　裕登	第35回 少年の主張全国大会 内閣総理大臣賞受賞者	平下　文康	国立青少年教育振興機構 理事
北風　幸一	内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付 参事官（青少年企画担当）	笛木　啓介	全日本中学校長会 生徒指導部長
土肥　克己	文部科学省 生涯学習政策局 青少年教育課長	古沢由紀子	読売新聞東京本社 論説委員
西川　龍一	日本放送協会 解説委員	宮崎　　緑	千葉商科大学 国際教養学部教授・学部長

（五十音順　敬称省略）

3 千葉県代表

鈴木　華祈
勝浦市立勝浦中学校　1年

友達ごっこ
（発表内容の主旨）
中学校に入り、急速に広がったSNSでの交流。SNSの中の「友達」の数を競う世界と、現実の学校生活を比較し、「友達」とは何なのかを考えるようになった。そして、友情とは、顔を見て言葉を交わし、様々な感情を共有することによりゆっくり育まれていくものだと気付いた。「友達」、「親友」といった言葉に一喜一憂せず、目の前の真実を信じて生きていきたい。

4 新潟県代表

平澤　幸芽
新潟県立燕中等教育学校　2年

仲間を守る一言
（発表内容の主旨）
仲の良い友達に同調し、級友Aを無視した。自己嫌悪に陥っていたとき、ある一言に出会い、自分が変わらなければいけないと気付いた。それをきっかけに、勇気を出して周囲にやめることを促し、全員で謝罪した。責任を持って自分の意見を表明することが、仲間を救う一言になる。

7 奈良県代表

小山　愛桂
奈良県立青翔中学校　3年

毎日が勤労感謝の日
（発表内容の主旨）
相手のことを真剣に思いやり、真心込めて仕事をする日本人の働き方は、当然のものではなく、そのおかげで私たちの毎日が成り立っている。鉄道会社のアナウンスや、駅員さんの対応からそのことに気づき、仕事をしている人々に日々感謝している。自分もいつか、誰かに感謝されるような働き方をしたい。

8 京都府代表

中山　ルーナ
京都市立春日丘中学校　3年

ハーフ?ダブル?本当の私は?
（発表内容の主旨）
日本人の父とフィリピン人の母を持ち、自分を二つを意味する「ダブル」ではなく、半分を意味する「ハーフ」と名乗っていた。来日した4年前は、周囲を避け、自信を失っていたが、学校行事や部活動、募金活動などを経験し、自分は日本とフィリピンの両方を自然に受け止めることが出来る「ダブル」だと気付くことができた。将来は、日本とフィリピンそして、他の国にも関わる仕事に就きたい。

11 鹿児島県代表

松元　一真
鹿児島市立坂元中学校　2年

本当の平和へ
（発表内容の主旨）
長崎の修学旅行の事前学習で、平和学習を行った。原爆の恐ろしさについて、当時の思いを身近に住む被爆体験者から聞き、原爆を落とす側の人も被爆者もそれぞれ戦争に対する苦悩があることを知った。真の平和のため、私たちは争わずに幸せを求め続けなければいけない。

12 福岡県代表

和仁　あやね
久留米市立田主丸中学校　3年

いかせ命
（発表内容の主旨）
小学3年生の頃、近所のおじさんと行った猪狩り。その時に見た、子を守ろうと血を流す猪、おびえる瓜坊、おじさんの悲しげな背中、真っ赤で温かい掌の上の心臓。それらは、私たちがたくさんの命によって生かされているということを気づかせてくれた。
たくさんのものからいただいたこの命を、これからも様々なことや人たちのために生かし、生きていきたい。

参考資料３

平成29年度内閣総理大臣賞の紹介〔少年の主張全国大会　～わたしの主張2017～〕

「仲間を守る一言」

新潟県立燕中等教育学校２年
平　澤　幸　芽

「Ａちゃんをはぶろうよ。」

もし、友達にこう言われたら、あなたは本当の自分の意見が言えますか。私は言えませんでした。だから私は、この主張をします。かつてのＡちゃんみたいな人が、少しでも減ることを願って。

「Ａちゃんをはぶろうよ。」

仲の良い友達から、突然言われた一言だった。私には、Ａちゃんを嫌う理由がなかったから、頭の中が疑問だらけだった。「昨日まで、仲良くしていたのに、何でいきなり？」しかし、その疑問は口に出せないまま、なんとなくうなずくだけで、のどの奥に沈んでいった。

次の日から、身近な友達の全員がＡちゃんを無視し始めた。Ａちゃんが近づいてくると離れ、Ａちゃんの話を遮るように誰かが話を始め、Ａちゃんをわざと一人にした。だんだんとＡちゃんから笑顔が消え、やがて近づいてこなくなった。周りの友達は笑っていた。

私は「こんなことをしてはいけない」「こんなのいじめだ」と分かっていた。目の前で繰り返される残酷な光景に対して、分かってはいたが、声が出なかった。これを言ってしまったらどうなるのだろうか。Ａちゃんともう一度仲良くなれるのだろうか。それとも、次は自分がはぶられるのだろうか。自分がはぶられることは、絶対に嫌だった。だから私は、周りの人に合わせて、意味もなく笑った。自分の意見が言えないまま。Ａちゃんを避け続けた。

それからというもの、友達という存在が、「楽しい人」から「疲れる人」へと変わっていった。もう一緒にいるのも疲れてしまい、面倒だった。けれど、嫌われたくないから、とりあえず何でも「うん」と答えた。私はそんな「友達」が嫌いだった。しかし、もっともっと嫌いな人がいた。それは自分自身だった。はっきりと「良い」も「悪い」も言えない自分が大嫌いだった。ある夜、ノートに真っ赤な文字で、「大っ嫌い、大っ嫌い。死ね死ね死ね……」と書き殴った。そのページの一番上に、はっきりと「自分なんか」と書いていた。

そんな中、インターネットを開き、画面に目を通していると、私はある言葉と出会った。「過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる。」

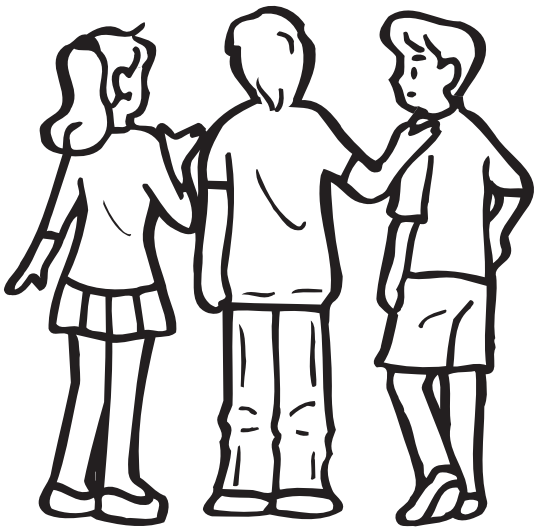
それを見た瞬間、ドキッとした。まるで今の状況を理解して、私のために書かれているかのような言葉だったからだ。その時やっと気づくことができた。自分が変わらなければならないということを。私が言うべき言葉は「うん」という「自分を守るための言葉」ではなく、

「こんなのいじめだよ。もうやめよ！」という、「大切な仲間を守るための言葉」だったということを。

「ねえ、もう、やめよ。」次の日、あの言葉に背中を押され、勇気を出して、私は友達に伝えた。「……うん。」少し間を置いて、友達は私の言葉を受け止めてくれた。そして、みんなでＡちゃんに謝った。

今年６月、県内の中学２年生がいじめを苦にして、自らの命を絶った。同い年の子が、私が想像もできないくらいの、痛みや苦しみを抱えて命を絶ったであろうことにショックを受けた。それと同時に、もしＡちゃんを避け続けていたとしたらと考えたとき、私は恐ろしい気持ちになった。誰も、彼を守ってあげられなかったのだろうか。周囲の人たちはみな、私のように、救いの一言を飲み込んでしまったのだろうか。「やめようよ。」その一言は、命が失われてからでは遅い。いじめは人を死に追いやる。だからこそ、周囲の態度は、それに対して責任をもたなければならないと思う。

私は、今では仲の良い友達にも「良い」、「悪い」と自分の思いを伝えている。安易に同調することだけが、友達ではないからだ。それから、「なんでもいい」という言葉はあまり使わないようにしている。「なんでもいい」は自分の意見を言うことを放棄していることであり、無責任な態度だからだ。今でも時々、「○○ちゃんってうざくない？」そんな言葉を耳にする。でも私は、「私はそんなことないと思うよ」と、責任をもって、自分の意見を言うようにしている。その一言が、周りの大切な仲間を守る一言になるからだ。



中学生のメッセージ2017
（第39回少年の主張三重県大会）
発表報告集
平成30年１月

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054
三重県松阪市立野町1291　中部台運動公園内
ＴＥＬ　０５９８-２３-７７３５
ＦＡＸ　０５９８-２３-７７９２
E-mail　ikusei@mie-cc.or.jp

中学生のメッセージ2017開催案内デザイン画入賞作品紹介

地元南勢志摩地区の中学生を対象にデザイン画を募集し、デザイン画展を開催しました。

デザイン画 第2位：「日常」
伊勢市立倉田山中学校3年　柴田美遊さん

大会当日の展示の様子

デザイン画 第3位：「身近なものと少し先のもの」
南伊勢町立南勢中学校2年　中村祥子さん

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団